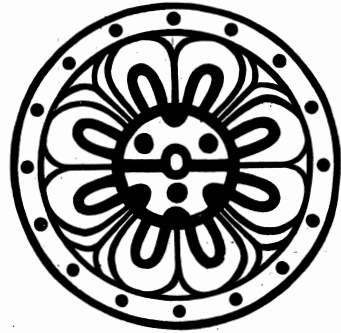


層富

(川口 勇書)



会章

平城ニュータウンの「平」と文化協会の「文」を上下に組み合わせ、単純な円形にまとめ、音如ヶ谷瓦窯跡から出土の古代軒丸瓦の中央部分に配置したものです。蓮華の中の埴輪の顔のようにも、二人三脚で楽しんでるようにも見えます。

(基本デザイン 朱雀・寛 裕)

会誌名「層富」(そほ・そふ)の由来

私たちが住んでいる平城ニュータウンの地域は、古代には「層富」または「曾布」添とも記され、「倭六県」(やまとのりくのあがた)の一つでありました。出典は『日本書記』の神武即位前紀己未年の春2月壬辰朔辛亥(20日)の条にみえる「層富県」によりました。

題字もはじめ小さく、あと大きくなりましたのは皆様の巧来と本会の末広の発展を願ったものです。

古代大和の由緒ある地名を理事会の賛同を得て会誌名としました。ご愛顧の程を。(網干善教)

第一号目次

59年度総会報告	72	卷頭のことば	1
58年度事業報告	67	カラト古墳の話	3
会則	64	平城地区の地質について	7
58年度役員、会員名簿	50	鹿笛考	9
グループの活動状況	30	奈良の昔話	12
みんなで初の文化祭	27	住みたくなる街づくり	14
俳句	23	春近く平城ニュータウン雑感	16
短歌「四季雑唱」	19	平城ニュータウンと私	17
みなで初の文化祭	27	短歌「四季雑唱」	19
グループの活動状況	30	俳句	23
58年度役員、会員名簿	50	みなで初の文化祭	27
会則	64	グループの活動状況	30
58年度事業報告	67	みなで初の文化祭	27
59年度総会報告	72	グループの活動状況	30

巻頭のことば

会長 網干善教

私たちの平城ニュータウンに「文化の燈火を」そしてたとえその明りが、小さく、暗くとも、やがて町全体を照すような灯火にしたいという願いをこめて、文化協会が発足し、一年が経過しました。

会員の方々は、それぞれのサークルで活動下さっていますが、なお設営に不十分な点多いと思います。最初から大きな成果を挙げ得るということはむつかしく、容易でないこともよく承知しています。

人間は勝手なもので、それがなくては生活できないとか、著しい利害関係が生じるといふような場合には、何をさておいても真剣になります。いつでもできるだろう、それをしなくても別に困らないと思うと、つい消極的になります。

文化活動というものはどうも二の次のように考えられ易いのです。ところがスポーツにおいても平素からの基本的訓練が必要ですし、子供たちの学習を見ていまして、毎日毎日の積み重ねが大きく成長する結果となります。

平素から、名著、名作といわれるすぐれた本をよく読んでいる人とそうでない人、絵画や音楽など芸術性豊かなものに馴染んでいる人とそうでない人、自分の趣味や興味を深めながら生活している人とそうでない人など、どこか人間性に違いが生じるものだと思います。

孤独で、偏見で、協調性にとぼしく、ただ自分だけを過信し、それに満足し、自分だけの幸を求めて生きるということは、人間として悲しむべきことだと思われれます。

いみじくも『中庸』に「博く之を学び、審らかに之を問ひ、慎んで之を思い、明らかに之を弁じ、篤く之を行う」ことの必要を説き、明の洪自誠の著書『菜根譚』では「高き（山）に登れば、人をして心曠びんげんからしめ（心が広くなる）流れに臨めば（大河）人をして意遠らしむ（思いも遠くはせる）」（環境を一転して心意を遠大にすべきだ）と書いています。幅広く、深みのある人間になりたいものです。

私たちはささやかながらも文化協会の活動を通じて、より成長したいと願うものであります。

（関西大学教授）

カラト古墳の話

鬼頭 清明

私たちの住んでいる平城ニュータウンの中にも「石のカラト」とよばれている古墳があります。この古墳は随分古くから知られていて、享保九年といえますから（一七二四年）徳川吉宗の將軍時代にすでに「五ヶ村惣図」という地図に記されています。この惣図は同年山城と大和とで国境の争論（裁判）があつて、大和が勝訴し、その時、カラト古墳のある土地が大和国の領地に確定したといわれています。したがつて、奈良県ではこれを以後「カラト古墳」とよんでいます。京都府では「カザハヒ古墳」とよんでいるそうです。石のカラトとはかわつた名前ですが、その名前のおこりは石室に投込んだ石がカラカラと音をたてるからだとか、「日本書紀」にみえる忍熊王子が戦いのさい、石を集めてつくつた石だたみがこの石室で、それを石のカラトとよんだのだとかいわれ

ています。以後、明治・大正を通じて研究がすすめられてきましたが、発掘調査は最近まで行われたことがありませんでした。ところが、一九七八年になって、日本住宅公団が石のカラト古墳の西側に専用歩道をつけることになり、公団ではすでにこの古墳が重要な遺跡であることを承知して、緑地として保存する計画ではありませんが、何分古墳の範囲がわからなかつたため、古墳の規模と範囲とを確認するために発掘調査をすることになりました。その結果、奈良国立文化財研究所が奈良県教育委員会と京都府教育委員会の依頼を受けて発掘調査を行いました。

その結果、古墳のかたちは、下段が方形で上段が円形、方形の一辺一三m前後、円形の上段は直径が約九mほどになつていて、高さは、東辺で三mほどであることがわかりました。さらに古墳の内部の各施設は、図のような石室がみつかり（一部は発掘されるまえから入口が開いていたため知られていましたが）石室の中から、金、銀製の玉、銀装唐様太刀の外装具、漆片、金箔片などがみつけられました。また、石室の前方につくられた墓道や墳丘南側から土器が小數みつかつています。

また墳丘は版築技法(はんちくぎぼう)と
 といって土を何層にもかさねて人力でた
 たきしめて作り上げたもので、高松塚や
 マルコ山古墳などと同じ作り方になっ
 ていることもわかりました。また、土器の
 年代は平城遷都前後にあたり、このカラ
 ト古墳もそのころ作られたのではないか
 と思われます。

さて、古墳といえは、お墓。古代人の
 お墓といえは、誰のお墓だったのだろ
 うという点が気になります。有名な高松塚
 古墳の例も、そういう話題が何度となく
 新聞・雑誌に掲載されました。しかし石
 のカラト古墳については、そのような被
 葬者を考える手がかりがほとんどなく、
 残念ながら特定の個人の名前を推定す
 ることができません。しかし、特定の個人
 の名前が推定できるにしても、何時ごろ
 活躍した人のお墓だったのか、どの程度
 の階層のものだったのかはなんとか推定



石室実測図

できるのではないだろうか。このようなことを考えるために古墳の歴史のなかで、カラト古墳がどのような系譜をもっていたものかをまず述べてみよう。石のカラト古墳は発掘の結果、円墳で、横穴式の古墳であることがわかりました。横穴式の古墳といえば、日本の古墳の歴史の中では五世紀後半頃からつくられはじめたもので（それ以前はたて穴式といわれる）、以後、七世紀の末ないし八世紀の初頭ごろまでつくられた形式です。石のカラト古墳は、この横穴式古墳の一番終わり頃、おそらく八世紀初頭に作られたものとされ、奈良県の歴史でいえば、ちょうど平城京が営まれ、京の中に次々に諸寺院が建てられた時代で、日本に唐の文化がつきつきにとり入れられていた時代にあたります。唐ばかりではなく、六七二年に滅亡した百済の文化、その後日本と友好関係をむすんだ新羅の文化などもそれぞれ大量に日本へもたらされたといわれています。

このような時代につくられた古墳は、やはりその時代の特徴を色濃くきざみつけられているようです。この石のカラト古墳の石室をみると、表面を丁寧にみがいた切石をつかっているのが注目されます。似たような古墳を

あげてみると、高松塚古墳、高松塚のすぐ北にある中尾山古墳、その西方にある牽牛子塚古墳など飛鳥の古墳をきざみつきにあげることができます。これらの古墳はいわば石のカラト古墳と兄弟関係（被葬者ではありません）古墳の作り方や形態が系譜として似ているのです（といってもよいほどの親近性をもっています。これらの古墳ではこの石室の中に故人を棺（うるしなどをつくった）を入れて埋葬したものとわれています。そうして、もう一つこれらの古墳の石室について共通しているのは石室自体が家形石棺のなごりをとどめているのだとされているのです。したがって石室は大きな石をくりぬいたり（牽牛子塚）、切石を壁面にならべて（高松塚古墳など）家形石棺の形になぞらえてあるのだそうです。このような形式の古墳は石棺式古墳とよばれて、朝鮮の影響をうけた形態で、大阪府の、むかしの河内国で最初七世紀のはじめのころに作りはじめられ、七世紀のおわりから八世紀のはじめにかけて大和でもつくられるようになります。高松塚古墳と同じ類の古墳だということです。金や銀製品、銀装の太刀などを一緒に埋めてもらった人が被葬者なのですから、石のカラト古墳の被葬者も、天

皇家の一族か、それに準ずるような身分の高い人であったにちがひありません。さて、被葬者はだれかということになると、さっぱりわかりません。文献史料の中から容疑者をあげてみると、志貴皇子（七一六年没）、穗積親王（七一五年没）、安八万王（七一九年没）、河内王（七二八年没）、葛木王（七二九年没）、などたくさんでてきて、シャーロック、ホームズ（なんと古い人でごめんさい）でも刑事コロンボでも、チョットこのナゾときはできません。第一物的証拠が少すぎるのです。

このナゾ解きができないのは、いささか残念ですが、しかし、歴史や考古学がおもしろいのは、個人が活躍するだけではありません。この古墳をつくらせた指揮官たち（おそらく役人でしょう）、その指揮の下ではたらかされていた庶民たち、その庶民のなかでも技術をもった人もたない人、その中にはこの古墳の形式の由来を知っていた渡来人もいたかも知れません。そうした人々が全体として、この古墳にかかわりを持ち、その作成に貢献したのです。

この人々の行った労働は、石のカラト古墳の石組みの一つ一つ、版築の一層ごとに彼等の汗と一緒にきざみつ

けられています。このような彼等の労働を一つ一つ分析し、検討していったら、彼等全体が働いた内容、社会全体の歴史の流れのなかではたした役割を明らかにすることも大切で、これも興味深いことではないでしょうか。そのためデータは発掘調査でかなり得ることができました。しかしそのデータの分析はなお今後の仕事として残されています。他の数多くの石棺式古墳との比較検討もしなければなりません。気の永い話ですが、将来に希望をたくしてコツコツとしらべる以外に手だてはありません。

この原稿は、京都府教育委員会発行の「奈良山Ⅲ」という報告書から素材をとりました。図もその転載です。またカラト古墳の系譜については飛鳥資料館学芸室長猪熊兼勝さんの「飛鳥時代墓室の系譜」奈良国立文化財研究所「研究論集Ⅵ」所収を参照して、その所説にしたがって記したものです。

平城地区の地質について

松村茂樹

平城地区は奈良盆地の北縁にあり、その北方には、木津川の河谷平野と八幡から田辺、枚方にまたがる丘陵が続いている。当地は、今ではかなり造成が進んでいて、平坦化されている所が多いが、その前は北方の丘陵と同じように、なだらかな丘陵地形を呈していた。この丘陵の地質は、造成工事中の崖面（切取り面）に見られるように砂や粘土あるいは砂利層から成っていて、多くの箇所では水平に重箱のように重なっているのが遠くからでもよくわかる。

この土砂はいつ頃ここに堆積したものであろうか。一般に砂漠地帯等や氷河の発達する地方をのぞいては、陸地は雨水や川によって侵食を受け、土砂であれ、岩盤であれ少しずつ削りとられて海へ運ばれる。したがって火山の噴出によって生じた陸地以外はすべて水の中に堆積

したものであるから平城も昔は湖か海の時代があったのである。ではこのような土砂が堆積したのはいつ頃の事であろうか。近年、全国各地で造成工事が盛んに行われるようになったが、これに伴って岩盤よりも新しい第四紀層と呼ばれている地層についての研究が進み、とくにC¹⁴法と呼ばれる炭素の放射性同位元素を利用した方法によって、地層が堆積した年代がかなりの精度をもって測定できるようになった。

その結果、平城の地層と同じ時代の地層が各地の丘陵地や盆地あるいは平野の下部に分布していること、およびその時代は古いものでは約二〇〇万年前にさか上り、新しいものは数万年ということが明らかになった。この期間は氷河期と呼ばれる時代で、例のマンモスが生活していた時代でもある。そのうち奈良盆地周辺の丘陵を構成している地層は古いものでは約百二〇万年前が確認されており、そこにはMa.Oと呼ばれる海成の粘土が存在している。海成の粘土層は一枚だけでなく全部で十二枚（新しい地層まで含めて）確認されていて非常に広い範囲に連続して分布しているので、これをもとにすると各地方の地層の堆積環境がよく比較できるのであり、他

に広域に特定の時期に分布する火山灰層とあわせて鍵層として使われている。またこの古い一連の地層は奈良盆地で約五〇万年前まで続いており、その間は当地を含めた奈良盆地は広大な湖であった。また西の大阪平野から瀬戸内海へ連なぐる海水域であったことがわかっている。この地層は大阪層群と呼ばれており、古いものは二百万年前の鮮新世から新らしいものでも更新世にまたがっていて従来は洪積層と呼ばれているものとほぼ同じものである。

その当時は、西の生駒山地は今ほど高くはなく、また北の木津川河谷平野は逆に今の奈良盆地より高位にあり、古奈良湖（水域であった今の盆地の区域を言う）へは東の主に古木津川（必ずしも今の木津川の流路とは同一ではない）によって運ばれた土砂が厚い地層となって形成されていった。木津川の上流域である東の山地は主に領家花崗岩が広く分布しているの、古奈良湖にもたらされた土砂には花崗岩を構成している石英・長石・黒雲母（キラキラと金色に光っている薄片）等の鉱物から成る粒子が多い。また粒の大きい砂利は花崗岩とは異っていて、非常に硬く、かつ表面がつるつるに円く磨がかれて、

色も白・灰・赤・青灰等様々である。この岩石はチャートと呼ばれるもので、ほとんど石英から成っていて風化に対する抵抗力が大きいので、もとの花崗岩が砂や粘性土になってもチャートはより大きい粒として残っているのである。この岩種も木津川水系の主に北方の山地に分布しており、今から二〜三億年前（古生代）のものであるとされている。

さて、上述したような堆積環境にあった当地域が現在のような丘陵地形に移り変わっていったのはいつの時代であろうか、そのために大阪層群やさらに新しい段丘堆積物の分布の状態の他に生駒山地の花崗岩をはじめとする諸々の岩石の状態、およびそこに走っている断層についての詳細な調査がいろいろな機関によって実施され、その結果では、約二〇〜三〇万年前から広い範囲にわたって基磐岩（ここでは花崗岩盤）の変位が顕著になり、西の生駒山地は上昇し、古奈良湖も北の木津川河谷平野や山城盆地に比較して相対的に上昇域へと移り変わっていったものとされている。それまで古奈良湖へ流入していた木津川は平城の北で向きを変え、山城盆地へと転じたのである。この大きな地殻変動はその最も動きの顕著

な六甲山系に代表されるので、六甲変動と呼ばれているが、その変動のなごりはきわめて微量ではあるが今も続いていると言われている。平城が丘陵地へと変わっていったのも、もちろんこの変動によるものである。

以上平城というよりも奈良盆地を含めた広い範囲についての記述に及んだが、第四紀の地層の成り立ちに関係の深い要因は、地殻変動による沈降あるいは隆起ゾーンが生じることの他に氷河の成長や衰退によって生じる海面の相対的な上昇・下降運動を無視するわけにはいかない。周辺の山地からの土砂の供給に加うるに地盤の変動と海水面の上下動という二つの相対的な運動が切り取り面にみられるような縞模様を造ったと言えよう。

(本稿は関西土木技術センターの資料をもとに公団でまとめたものである)

(住宅・都市整備公団関西支社平城開発事務所事業計画課)



鹿 笛 考

大 西 尚 明

ごく最近鹿笛を手に入れました。これを機会に、奈良に住む者として、人間と鹿の付き合いについて考えて見たいと思います。

かつて、狩猟採集文化の時代に、緑豊かなこの大地に、春夏は魚貝類を求め、秋は木の実を拾い、冬は鹿猪を追い、あるいは生活に必要な石器・土器を作り自然とともに生きた心豊かな人々が住んでおりました。古代から草食性と群生の鹿は性質はおとなしく、肉は美味にして、皮革角骨は生活用具と装飾品に利用され、人間とは深い関係を持って来ました。

昔は鹿が沢山棲息していたことは古事記に書かれており、又銅鐸に現われた狩猟文様を見ると、主な狩猟獣である鹿を弓矢で射る有様が写實的に描かれております。

鹿をめぐる民俗と神話伝説が沢山あります。愛媛県宇

和津彦神社の秋祭りに、鹿頭をつけた子供たちが、胸の小太鼓をトントンとたたき、哀調をおびた歌声と素朴な笛の音の民俗芸能八鹿踊りを見ることが出来ます。又、岩手県では約千年の歴史を持つ鹿踊りがあります。春日神社では鹿を神使としていることは有名であります。山城の大原神社、安芸の厳島神社の神鹿、諏訪信仰における鹿頭の神供等があり、鹿は霊異ある動物として信じられて来ました。一方鹿島の地名は各地にあり、秋田の男鹿半島、宮城の牡鹿半島、鹿野、鹿谷、鹿越、鹿追等があります。

狩とは「鹿狩り」を意味したことは当然のようです。我が国土が鹿の繁殖に適したところであったことは疑いありません。

笛鹿猟では、秋の発情期に雌鹿の鳴き声のような「ビビツ」と響く鹿笛の音につられて、雄鹿が何頭も

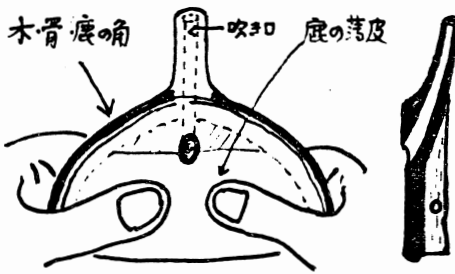
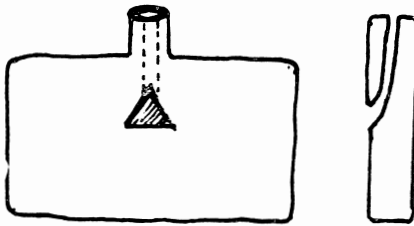


図 I 鹿笛 指の空どう部に張った皮を調節しながら筒に口をあてて吹く



発音体は鹿の角の皮、鹿の耳の皮。

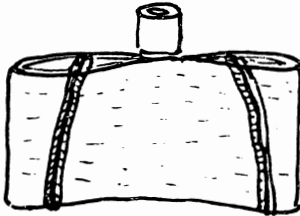


図 II アイマのイルテッポ 本体の材料は白樺で作られている

突進してくるところを弓矢で射とめられたようです。鹿の音は鹿にとつては悲しい笛の響きでしょう。擬音を用いての鳥獣の捕獲は、インドネシア、アマゾン川の奥地の原住民の鳥笛にも見られます。鹿笛は鹿の角、又はヨシブの木の瘤などで作り、鹿の胎児の皮、或いは蛙の皮などごく薄い皮を張り、草笛のように一端を湿して口にあてて吹き、雌の鳴き声の響きを出します。(図 I)

アイヌにはイレテップ (iretepp) という鹿を呼ぶ笛があります。鹿笛と同じく雌鹿の声を模倣して雄鹿をさそって射るのですが、発音体には鮭の皮、鹿の耳の皮、胎児の皮を使うようです。イレテップの音につられて雄鹿が興奮して突入して来る光景が目につります。(図Ⅱ)

本土の鹿笛とアイヌのイレテップの形は凸字形と吹き方は同じですが、その関係は知るよしもありません。

昔、ここ高野原に鹿が沢山おり、春日山の尾根からのぼる月、その光に照らされた鹿たち、彼等の鳴く声が風の流れとともに聞えたことでしょう。こうした情景がロマンチックに私の心に投影いたします。長皇子が万葉集に残した歌の中に、「秋さらば 今見ると妻ごひに 鹿鳴かむ山ぞ 高野原の上」(巻一、八四)があります。日本人独自の風土から生まれた美意識と、心に響く音の感受性との調和が表現されております。音楽においては筆曲吉沢検校の「秋の曲」の中に「山里は秋こそ ことにわびしけれ 鹿の鳴く音に目をさましつ、」があります。又尺八曲琴古流の本曲で、尺八二管のかけあいであ奏する「鹿の遠音」(中学校鑑賞教材)は宗教性や精神性

を第一義とする本曲の中では、最も親しみやすく、山里で遙かに聞く雌雄鹿の鳴き交す鹿の声を描写した名曲ですが、秋の情景を彷彿させる味が感じられます。別に鹿の雌雄の仲睦まじい情交の叫びであるともいわれます。その面影がうかがわれます。

時は流れ、時代とともに、自然は激しく変わり、社会と価値感が変化して来ました。

鹿笛の語感から何かロマンチックに感じられますが、その音には鹿の悲しい物語があります。

中国の秦の趙高が、鹿を指して馬と云った故事によって「馬鹿」の熟語が出来たようです。鹿は人間の餌食、狩の獲物、歌、音楽、踊り、神鹿、観光となり、ある時には鹿害裁判になっております。人間は勝手なもので、馬鹿を見ているのは鹿そのものであり、全く迷惑な話です。

今では奈良公園飛火野で観光のために、ホルンで鹿寄せが行なわれておりますが、一度この鹿笛で鹿を寄せて見たいものです。

(平城山民族楽器研究所)

奈良の昔話

「語りべの縁につながる中で」

孝田有禪

わたしが、口演童話の魅力にとりつかれ、昭和のかたりになりたいたいと願うようになって四十年ほどになります。

なにごこんなにも昔話を聞いたり聞かせたりすることが好きになったのか、ふりかえりますと、結局は、わたしの生い立ちの環境にあるようです。

わたしは、鳥取県の赤碕という田舎町の小さな禅寺で生まれました。父がとつても話し好きで、来訪者をつかまえては茶を喫し、一日中でも故事来歴をおもしろおかしく話をしていました。次に母方の祖母が毎日のように寺へきては、狐に化かされた話、幽霊、森や川などにまつわる話をしてくれました。

私が中学校時代は日支事変の頃で、農繁期には、寺で幼児五十名をあずかる保育所を開設していました。学校の先生、女学生、父母姉夫婦が保育する中で、わたしも紙芝居づくり、おとぎ話、大和の行人から直接聞いた話をする機会がたびたびありました。「兄ちゃんもつきかせて、話をして」

幼児にせがまれると、勉強そつちのけで、話しに夢中になったものでした。

縁があり吉野の禅寺へ弟子となることになったわたしは、夏休みには、吉野の寺で雲水修行をしました。ところで吉野の師尚の趣味が書道と口演童話でした。彼岸会式、観音講などどんな会式でも、子どもを集めては、童話や紙芝居をくり返していました。

特に各地で布教師を頼まれると、近辺の小学校を訪ねては、童話会をしていました。「父のようにあんなに上手に話ができたらな」。そんな思いでいつも聞いていました。

奈良師範入学と同時に童話部を結成し、当時大阪などから疎開してきている旅館合宿の小學生に、激励童話会をしたりしました。

奈良県童話連盟に入会を契機に民話の採集や創作童話をはじめ、仲川明、久留島武彦、山田熊夫、阪本学、宮前庄市先生方のすばらしい口演童話を聞く機会を得ました。

最近わたしたち同人で「ならのむかし話」と「奈良の伝説」の二巻を〈日本評準〉で発刊しました。

それを編集するに当たり、先ず伝説と昔話の区別の必要に迫られました。

結局、かつてひもといたことのある民俗学で有名な柳田国男氏の「日本の伝説」の論説を基盤にすることにしました。

「伝説と昔話とはどう違うか。昔話は動物のごとく、伝説は植物のようなものだ。昔話はほうぼうとび歩くから、どこに行っても同じ姿で見かけることができ、伝説は、ある一つの土地に根を生やしていて、そうしてつねに成長していくものである。」

この昔話は動物、伝説は植物の二つ大別の仕方はよくわかる学説だと思いました。またある説では、同じ口承文学の形態で、昔話は、「むかしむかしあるところ……」と時代も場所を特定していない。

伝説は「今から〇年程前に春日山のそばの杉の木の上……」と年代・場所など特定している。などと、場所・年代の特定の有無で区分しています。

奈良の伝説・昔話の本を編集するに当たって、昭和三十四年に出版された「大和の伝説」(奈良県童話連盟と高田十郎氏の編集)をたよりにして、伝説と昔話をふりわけてみました。

この「大和の伝説」の本には、奈良県下各地の伝説が千数十話採録されています。

殆どが、その土地にある自然物にゆかりをもつ伝説ですが、奈良独特のむかし話に属するものが少ないことに気がつきました。伝説を分類すると、法力(弘法)伝説・霊泉・地藏・石・瀧・蛇・古木・力持ち・悲しい話・山・川・ほころ・お寺・などに区分されますが、約八十%が伝説でした。特に奈良市では、昔話の口承が少なく、山間の田原町に伝わる「地獄めぐり」という昔話形態の話が一つみつかりました。

その「地獄めぐり」という話のあらすじは、『むかしあるところに二人の遊び人の若者がぼっくり同じころに亡くなった。極楽をさがしているとき三人連れ

と出会い同道することになった。

途中黒鬼につかまり、焰魔王により生前の業罪積からさばきを受けることになる。結局罰に對し、一人は輕わざ師、一人は祈禱師一人は医者遊び人の二人が持ち前の特技を生かし、罰をぬけるという落語や万歳のオチにも似た形態もある楽しい話でした。

「猿沢池の竜」とかほかにありますが、これは、むかしの書物にあつたものが語り継がれたものです。

奈良市内には、吉野山間に比べ、奈良らしい昔話が定着していません。それは、古都觀光都市として旅人の出入りが激しく情報も豊富、多くのものが口承されるため散逸したのかもしれない。

ある日、奈良市内の九十三才の寝たきりのおばあさんにむかし話の採集にいきました。おばあさんは「わたしみたいな者も役に立ちますかえ」といいながら、新薬師寺の身替り地蔵の話をしてくれました。

その話は、お寺の人もはつきり知られませんでした。そのおばあさんは、私に伝えた身替り地蔵の話を残して一か月後天に召されていかれました。

(奈良市立平城西中学校校長)

住みたくなる街づくりを目指して

—平城ニュータウンの建設に思う—

大津 克巳

はじめに平城ニュータウン文化協会ご結成一周年を迎えられ、会報の創刊号をご発刊されるに当たり心よりお祝い申し上げます。

今年はやさしい寒さが続きました。毎年三月十三日には東大寺二月堂での長い一連の仏事を了えて法螺貝のろうろうと響く中、お堂前の「若狭井」よりお香水を汲み本堂に供える、いわゆるお水取りの行事を迎えます。もう春遠からじと言うところですよ。

私事ではありますが、当所に着任しましてこの五月で早や八年の歳月が過ぎようとしております。お水取りはマスコミの季節になっていますが私にとっては別の意味を持つ熟語です。

今から二十年程話しは逆のぼりですが当時、日本住宅

公団大阪支所宅地開発部で地区選定の業務に携わっておりました。大久保氏（現在阪大法学部教授）を班長に数名で近鉄平城駅前から歩きはじめ、それこそ腰弁当で神功皇后陵から押熊、山田川、歌姫町他、地区内外を踏査したものです。その頃はもち論、高の原駅もなく一帯は雑木林などの丘陵地でしたが、今のニュータウンの姿を見るにつけて隔世の観がします。と同時に将来自らがこのニュータウンづくりに携わることになるとは当時は夢にも思わなかったものです。

昭和四十年に当地区の計画を進める為の手續りが開始されましたが、その後、宅地造成も進められ、昭和四十七年には初めての入居者を迎えるに至りました。手元にある資料などによりますと私が着任した五十一年頃のニュータウン人口は約六千五百人でした。それが五十三年には約八千六百人、五十八年約一万四千人と急ピッチで増えておりますが、やがて相楽地区（京都府側）にも人が住み始めるようになることも人口は増して街並みも関西一円と言うよりも日本でも有数の美しいニュータウンになると思われます。

いつも考えているところですが、この街づくりに当た

っては「住みたくなる街」を目指しております。

この為に次のような五項目の基本理念をあげて見ました。①古都奈良、京都にふさわしい街づくり ②風土と調和する住宅地を創り出し創造的な生活空間を築く ③グリーン・システム（緑の系統）により緑を張り廻らし豊かな生活空間を創り出す ④七つの近隣住区を基準とする生活空間を築く ⑤日常の快適な都市生活に必要な供給処理施設を整理し、健全な街づくりを目指すなどで、或いは基本理念というよりはこの街づくりに賭ける私の信念のようなものかも知れません。

さて皆様方もすでにご存知の事と思いますが、このニュータウンは奈良県側（349ヘクタール）を平城地区、京都府側（264ヘクタール）を相楽地区と称しているのですが、全地区613ヘクタールが完成し計画通りに人が住みつきますと約七万三千人の人口となりこれは千里ニュータウンや泉北ニュータウンのほぼ半分位に当たる規模のもです。このニュータウンのこれからの建設計画ですが、現在は街の核でもある高の原駅前整備に向けて全力投球をしています。宅地造成については平城地区を昭和六十一年度に完成させ、相楽地区を昭和六十四年度に（六

十一年度使用開始、街びらき) 終結させる予定であります。

また一方ではマスコミなどで話題にされている京都府南部地域や、奈良県、大阪府の二府一県にまたがる京阪奈丘陵に繰り広げられようとしている関西文化芸術研究都市の開発構想ですが、国土庁を中心に関係する公共団体などの手でまとめられその一部については提唱もされています。このプロジェクトが実現化されますと自然に囲まれた壮大な文化と学術の新しい街が出現し、この時には平城・相楽ニュータウンはその一環を担う住宅都市として更に新たな魅力が加わることになるでしょう。このように単なる住宅地開発として高度経済成長の波ののって歩んできた当ニュータウンも、周辺の環境にふさわしいロマンに包まれた新しい街づくりが進められ二十一世紀に向って確実に歩んで行くことになりました。終わりにこのような意義ある時機に、日本でも余り例のない平城ニュータウン文化協会の今後益々のご発展を希って創刊のお祝いの辞と致します。

(住宅都市整備公団関西支社平城開発事務所長)

春近く平城ニュータウン雑感

匿名希望

オリオン星座の三ツ星が、中天近く、雲のきれめから、バス停を離れ、街灯の光がとどかなくなると、くつきり眼に飛び込む。午後七時、ああもう春だな、シリウスは雲の中だ。一月の末、三ツ星が丘木立の上に姿をみせたときを想い出す。星座は月とは逆に日ごとに東から登る時間が早くなっているのだ。大阪近郊の古い住宅地に住む妹がいった。

「兄ちゃんとはものすごく空が大きい」

「とにかく、ホトトギスなきつる里は、酒屋へ三里、豆腐屋へ五里」「陸の孤島だよ」「のりかえ三回階段二百数十段」甲羅に苔のはえたサラリーマンの述懐ではある。

「トンネルを抜けると気温は三度違う」これは奈良に昔から住む友人の表現。

ナンパンハゼの銀色の実とオレンジ色の街灯はよく似

合う、バスの中でいつも思う。「ついでに住家」とい
と女房がちよつと嫌な顔をした。霧の朝のバス停はいい、
ハシブト鳥が堂々とビニールのごみ袋をねらっているの
もよい、ジョウビタキ、ツグミ、ヒヨドリ、メジロ、シ
ジュウガラといった野鳥を図鑑で知った。雪の多かつた
今年、赤い実にさそわれて、ツグミの集団が昨年、ヒ
レンジャクにとつて変わり、一日で消化してしまつた。
風が吹く、雲か霧か。青空をバックに低く、いつか見
た立山室堂二六〇〇以上の朝のように。

四月に入つたら秋篠の方へツクシをとりに行こう。一
つ一つの自然が、長く残つてほしい。いつの間にか子供
心にかえっている自分に気づき、思わず笑みをうかべる。
五月末のホトトギスの声―今年はどうだろうか。

平城ニュータウンと私

酒井敦子

この町に移り住む前のある日のこと、隣のAさんが
家の設計図をもつて「お茶」に見えた。そのころ私達は
社宅に住み、昼間は幼い子供の世話と、転勤族の亭主の

留守を預かつていた。いつ転勤するかも知れない主人の
もとで、つねに引越の準備をしながら、それでも毎日平
々凡々と同じ屋根の下で、何人もの主婦たちが退屈粉れ
にお茶のひとつときを楽しんでいた。幼い子供をかかえて
遠出が出来ない主婦達の退屈粉れの会といつても、それ
はそれなりに結構楽しく、有意義なものであつた。そん
時、Aさんは引越するという、平城ニュータウンへであ
る。彼女が転居して半年ほどのち、電話で、新たにミナ
ミ区画売り出されていることを報せてくれた。爽竹桃の
紅花が咲いている真夏の暑い盛りだったが、ちよつと散
歩のつもりで、ニュータウンのあちこちを歩いてみた。
どの通りも、どの家並も素敵じゃありませんか。私は歩
いているうちに、だんだんこの街が好きになつてしまつ
た。今度ももう少しはじめにどの区画にするか一筋、一
筋でいねいに歩いた。そのうちひとつの区画に辿りつい
た。南通りに面していて、北側には小高い雑木林があり、
そのすぐ下は谷になっていて、川の流れがいまにもきこ
えてくるようでもあつた。その川の土手の上の方には赤
い歩行者専用道路があり、それに沿つて四季の色を飾る
グリーンベルトが並んでいるのがなんとも素晴しかつた。

その後、私たちはその一画を申込みため一枚の葉書を投函した。しかしこの時はまだ特にこの平城ニュータウンには是非住みたいという切望もなく、ただ御縁があればという気持だった。あとから百四十八人もが、その区画を申込んでいたことを知って全く驚いた。当りつこないと思っていた気持の方が強かった、ところが抽選にはあつたのだ。私たちがその場所を選んだというよりむしろ、その区画が私たち家族を選んでくれたと思える程であつた。人の一生というのは、人類の長い歴史からみれば、ほんのわずかな瞬間であるかも知れない。その時期を私はここに住ませてもらう。人が一生のうちに出会う土地や人は多いようだが実際は限られている。こんなふうに思いを巡らしてみると、長い歴史の中で、自分の生きる時代、場所(地域)、出会う人たちのことを限りなくいとおしく思える。今私は偶然ここに住む、そしてこの人々と出会い友となる。しかし、それは偶然ではないかも知れない。何か前世から決められていた、自分に与えられた運命のようなものかも知れぬ。それらな皆、わけあつてこのニュータウンに住んでいるのではないか。ここに長く住む人、短期間だけ住む人、いろいろいるだろう。

しかし、あの頃あの地に住んだ時は本当によかつたといえる街でありたい。このニュータウンに恒久的あるいは一時的に住む人、両者ともその人の人生にとつて、その時期その年代はたつた一度なのだと思ふとき、この地に住む一日一日がとても大切に思えてくる。そう思うのは私ひとりだけであらうか。

現在、私たちが住むニュータウンに文化協会が設立されていることはとても嬉しい。『火間生活は没社会的であつてはいけない。互いに自分のもつ「よいもの」を出しあい、また人から「欠けているもの」を教わつて、自身を人間的に高めていくことが大切』だ』と言われる網干会長のお言葉が胸にひびく。

私も、このニュータウンに住ませて載っている間に、私の人生で今この時にしかできないようなことを見つけ出し、良き友と出会い、少しでも人間的に自分自身を高めていくことができれば、この町に住まうこととあわせて二重の幸せである。

四季雜唱

左門 璃晃

さくらばな透きゆく朝のかがよひに落花の余剩を見定めむとす
荒涼たる悦楽の世も見たりけむ西行こがれし桜やさくら

あらくさの茂れる原を少年の長き脚ゆく犬したがへて

たちかへる原爆忌の今朝かかはらず向日葵のめぐり明るかりけり
真如の月もとめやまざりし過去よりの森立ち出でてまた森に入る

“密室の閣議”は知らず国民はつね否応もなき立場にて

散りいそぐ枯葉は風に乗りきたり噴水の秀にふれて落ちたり

茫漠と劫の流るる風の中で陽の落つるとき冬づく樹間

みず音は織々たりて冬の川の芥も冽く雪ぞ降るかな

白雪のほむらだつまで降るからに匂ひだつまで美しき生命ぞ

野の花 大浦小枝子

いつ誰がこのあいらしき野の花をよびはじめしやへくそ
かづらと

つくしの子あたま出せりのニユースありこの雪空にいか
にすこすや

土寒く陽光ひかりまらぬし福寿草黄色に笑みてひなまつり来ぬ
卒業式間近にひかへ無念にも輪禍に散りし十八才よ

夜半すぎひき逃げされし十八才の屍のいかにさむくあり
しや

春をよぶ 岡田越子

春をよぶあたたかき雨に雪もとけ庭の花木は緑の増しぬ
弥生きてうすきセーターで道歩く人の顔にも春の色満つ
殊のほか冷たき冬を耐へきたり雪の下より若き芽出づる
雪とけて屋根より落つる音すなりめづらしき年の春を思
ほゆ

おめでたうと言はれてなみだこぼれくるあきらめをりし
娘の合格よ

平城の日々 木庭和子

凍て土の固きを貫きて萌えいづるは何の新芽ぞあはき光
に

ほととぎす鳴きて飛びゆき初夏の真澄める空をあをき風
ふく

かはたれのまがきのもとの花あかりつはぶき群れて咲け
る愛しさ

虫の音もたえだえにしてこの夕べふけゆくほどに素足つ
めたし

雪深く積れる朝の校庭に喜々とたはむる児らの声ひびく

白銀はるか 久門富美

子に寄する吾の期待の年々にあはくなりゆく事のさみし
も

秋風に飛び散る銀杏を追ひゆきぬ礼服装たる七五三の子
は

夕暮の日差しは赤く窓を染めわれは厨に包丁研ぎある

目をうばふ雪の芸術の神秘さは神のものかや人のものか
や

羊が丘の名に望みかけをり立てば白銀遙か馬そりの音あ
はれ

雑 詠 田中綾子

花 曆 西山佐代子

千両の葉の上に白き夾竹桃散りて咲くがに雨にぬれをり
臨終の夫とは知れど崩るる身を子に抱へられ室出でてき
ぬ

夫の墓拜みある背の丸くしてあはれに見ゆる己が写し絵
霜月の墓地に座りてアコーデイオン誰が為弾くや髪白き
人

池も田も家建ち並び故郷は様の変れど母はいますも

生きがひ 永田喜一郎

古代史を学ぶ心はずむなりけふ木簡を目のあたり見て
歌心たぎら涌きくるわれもまた歌集編まむと夢いだきあ
る

拓本に魅せられし人集ひあひ山の辺の道の歌碑を訪ぬる
地酒味はふ集ひは楽しわが友に「越乃寒梅」なきをいか
に告げむか

積雪に手負ひし花木をいたはりて庭のあちこちに肥料を
うづむ

いつしらに疎遠となりし故郷の藪萱草は見えかくれする
夏の日も終りをつけて輪をくづし子等走る辺に菰はこぼ
るる

異国よりバースデーカード届ききぬ壁覆ふ蔦の色変りぬ

陽だまりにあやめ一輪かへり咲く鑑真和上のゆかりの森
の

平城の都をしのび植樹せし山茶花咲きぬ御柱跡に

母生抄 古川千鶴子

病むわれに代りて十歳とよの慣れぬ手で吾娘は夕餉の支度し
てをり

知り人の心なき言葉耳につき胸いためつつ身を省みる

吾子ふたりキャンプに行きて静まりしこの長き日々如何
に過ぎむ

同室にて友となりたる人々とアドレス交はず退院の朝

近頃は洋風さへも影ひそめ青き大空に何を捜さむ

初 日 三 井 サチ子

湯浴みのあと庭に花火を眺めつつ夜空こがせし空襲おもふ

嵯峨筋のかそけく揺るる寺にふと十二単衣の衣ずれ想ふ
初詣で終へ門前の焚火あたりつつ山影昇る初日をろがむ
青き眼の托鉢僧は足のひびに血の滲みをり雪降る朝を
淡雪に日のさしをりてアンテナにとまれる馬の轡りのど
けし

微 笑 宮 川 恵美子

おごりとも咲き極まれる洋蘭にわが視野たらまら画布キャンバスと
なる

木枯しに舞ひ散る紅葉のゆくへすら追ひ求めむか果せぬ
夢も

厳冬に負けじと堪ふる撫子の微笑むごとき紅くれなゐあはれ
掃き寄する落葉を捲きて風はすぎ忙しき暮れの刻ながれ
ゆく

一年の福を祈りてつく鐘は岩船寺の森へ音澄みて消ゆ

子 を 思 う 山 元 洋 子

わが胸にあつき思いの常にありおそくに生れし幼児わを持
てば

おかしきはわれ幼くて子を持ってり夢の中では母もおわせ
り

子のはたらとなればわが歳いくつなるおそき子持てる命
惜しまん

冬空に風上ぐるらし甲高き幼の声に吾子もまじるか

朝な夕な学校放送の聞こえきていつしか教師の名もおぼ
えたり



俳句

牧野春駒

飾焚き石佛の辺を汚しけり
 山祇に日脚伸びたる子守唄
 春蘭を提げ流水に追ひ越され
 青海苔は波がもてくる花祭
 夏蚕飼ふ二階支ふる太柱
 浚へゐる溝より立ちて一蓮華
 花作るたつき猪垣近くあり
 秋の山より校庭の子を呼ばふ
 松の雪籬の雪とつながれる
 焼藪のこぼれ散つたる法衣かな

俳句会作品抄

牧野春駒選

三井サチ子

大淀の冬の日返しはしけ過ぐ
 水涸るる手洗鉢や尼恙が
 萩の雨心散らさず針運ぶ
 留守の庭吹き寄す落葉色重ね
 七五三戻りは父に抱かれし

西山佐代子

再会を約して別れこぼれ萩
 紫陽花の遠眼にも濃くかくれ寺
 衝立の蔭に正座の秋裕
 七五三袴の紐を締めなほす
 コンテナの屋根にのせきし北の雪

永谷秋乃

胸うすき紙人形や花芙蓉

何となく気の沈む日は草引かむ

乱れ萩伝言板の女文字

黒板の文字大きめに冬籠

厨窓小さけれども風は秋

柏木一枝

老いどちに茶筌の里の菊日和

瓜の蔓たぐりてゆけば蝸が

薫風にみ佛在す集ひかな

旧姓で電話かかりし秋の夜

掃き寄せる老の簾に添ふ落葉

永原寛子

菊人形法被姿の腕かざす

秋茄子ぶつりと嗜みて茶漬かな

神々の御心のまま紅葉せる

太き字の字引なきかと冬の夜

吾子くれし塚の鉄裁ち初め

喜多まさ

松手入すみたる庭に日ののこり

庭の外まで鶏頭の生ひ出でて

小春日をただに歩いて老忘る

南大門極月の鹿かたまれる

老の顔なでてすこやか初鏡

廣田 春

川口 シズエ

鈴蘭に思ひ出さるる面輪かな

年とれば眼覚の早し蟲の秋

夫の忌を修す手向けし菊白く

茶の花にぼかばか日和終りかな

販ひし山もすつかり眠りけり

友逝きし秋の簾のかかりをり

秋晴の小さき蜂の流れゆく

晴天に小言いひつつ障子貼

金婚の祝ひの言葉菊を添へ

木枯の中に鉄の音しかと

木村 長子

森村 和枝

梅の尾の紅葉の谷に何が棲む

萩の雨三錠のこる飲み兼

秋晴や塩あらあらと打ちふりて

爪を剪る四日残りし古暦

眉近く若草山は眠りけり

犬ふぐり摘むやポケットより手出し

日脚伸び消毒臭き扉開く

オリオンの三つ星凍つる露地の空

おんどりのとさかの赤し雪を掻く

枯れ果てて紫残す菊のあり

牧野和代

チヨコレートいびつに割れて梅固し
香焚いて築山に雪残りある
なんばんの一尺伸びて船見ゆる
草刈つて下馬石の彫深くする
焚くものに椰の実もあり掃納

牧野友美

神の池また降りはじめ木の芽どき
蟻の道たどれば海女の墓となる
鎌足の生まれし村の早桃かな
寺の子のあとを追ひつつ登高す
門構古りて矢田山笹子鳴く



楽しい受講風景 (58, 11, 8 古代史講座)

みんなで初の文化祭

一、実行委が企画

五十八年二月、平城ニュータウンに生まれた文化協会は、約八か月を経たところで、文化の日を迎え、第一回文化祭として、上演、展示、大会、実演の各部門において、多彩な行事を繰り広げることになり、これらの準備のため十月初旬頃に、実行委員会を組織し、会長以下関係各役員が取り組み、文化祭を意義あらしめ、成功さすために、みんなの創意を結集することになった。

二、各部門で実施

期日は、十一月三日から六日までと定まり、会場は、市北部出張所会議室、右京小学校体育館、第二団地集会所、平城西公民館、そして、民芸手工芸品展示場として、住友、南都両銀行のロビーの提供もうけ、平城ニュータウン全域に亘る会場において、多彩な催しが展開された。



文化祭のコーラス（右京小体育館で）

まず十一月五日には、平城第二団地集会所で、開会式が開かれ、綱干会長のあいさつにつづいて、詩吟、民謡、楽器演奏が行われた。また、この日には、大会部門としては、唯一の行事である囲碁大会は、平城西公民館で、段級でABクラスにわけ、一人四回打ちで、囲碁ファン多数が参加された。

十一月六日は、右京小学校体育館でのイベント。午前中はマンガ映画、コーラス、楽器演奏、午後は孝田有禪平城西中学校長の童話、平城高校演劇部の「人形館」高校生演技としては素晴らしい発表があり、そのあと、本日のメインイベント木下正史奈良国立文化財研究所室長の文化講演「飛鳥水時計遺蹟の発掘」。作品展示会是一般から絵画、書、写真、園芸（盆栽）など、会員から短歌、俳句などの作品を募って十一月三日から六日まで、市北部出張所会議室で開かれた。

展示部門のうち、拓本は第二団地集会所和室で展示された。みんな初心者ばかりだが、なかなかの出来栄えて、参会者の中には、拓本のとり方など質問があり、同好会員交替で、会場での説明役を務めたが、同好会員外の篤志家も、拓本会場でのお世話をされて、手薄な同好会員

は援助をうけた。

手工芸の民芸品の展示は、南都、住友両銀行の、ロビーが提供され十月三十一日から展示され、これが素人の作品かと、思われない数々の民芸品が、所せましと並べられ、参会者らは熱心に見学されていた。

出品者

(順不同・敬称略)

◆ 絵画

古川千鶴子、大浦小枝子、鈴木政治、前川久子、藤井忠克、高橋節子、笥裕、澤田律子、大橋宏子、梶野哲、下条新太郎

◆ 書道

宮本郁江、金澤節子、奥島公子、飯田嘉子、鬼頭かつ美、阪口修一、川口勇、川口貞子、佐々木倫子、田室利雄（西崖）、前川良雄、中西八代子、

◆ 写真

綱干善教、浅岡末治、太田安彦、稲垣作二郎、永谷憲、眞鍋さとみ、永田喜一郎

◆園芸

山田吉茂、稲垣カジ、中村正雄、田中幸夫、岡田越子、三井サチ子、永田喜一郎

◆短歌

増井由紀子、西山佐代子、三井サチ子、宮川恵美子、大浦小枝子、田中綾子、岡田越子、古川千鶴子、永田喜一郎、網干善教

◆拓本

渡辺亮斗、寛祐、寛美美、盛田桂子、中村正雄、大山美寿子、永田喜一郎

◆俳句

三井サチ子、西山佐代子、永谷秋乃、永原寛子、柏木一枝、喜多まさ、廣田春、木村長子、川口シズエ、森村和枝、牧野和代、牧野友美、牧野自然

◆手工芸品（住友銀行会場）

赤松五十子、宮村ハナ、岡平房子、岡田越子、石谷のり子、岡田ちか子、石丸禎子、毛利公子、宮川恵美子、岡田富美、松村慶子、浦井益枝、井村孝子、黒田正子、梅本佳子、永谷秋野、成田美智子、小河律子、工藤恵子、岩城光代、吉川洋子、進藤佐智子、前口明美、北

川尚子、山本清美、河合文子、細川まり子、齋藤多寿子、伊藤文子、中村喜美子、小原真知子、福井明子、巽のぶ子、谷前桂子、野田雅子、松尾キミ子、川手イツエ、中西みつ子、丹羽千恵子、森岡多津子、東谷タカ子、田原寿子、森崎通江、山本頼子、岡本トモ子、中村タミ子、高井由利子、黒田正子、海老江富美子、中西八代子、石森

（南都銀行会場）

黒田正子、宮川章子、橋本千鶴子、松岡昭子、河合文子、室井和子、藤本和子、福島ユキエ、内藤頼子、柳井原優子、中西佐喜子、宮地厚子、坂田シナ子、森岡末野、谷前桂子、東谷タカ子、山本三栄子、森崎通江、石橋紀子、中村タミ子、海老沢富美子、井谷由紀子、三輪久恵、小林喜美子、佐々木のり子、重久陸子、山田敦子、笠原瑞子、牧野時男、山下秀之、井部栄、北川尚子、小河律子、岩城光代、山田正子、松浦恵子

グループの活動状況

歴史教養講座

新聞やテレビを見ていますと、古代の遺跡や遺物の新しい発見や、発掘調査の成果が報道されています。限られた紙面や数分たらずの放送時間では、その価値や意義を十分に理解することはむづかしいと思われます。また、基礎となる歴史的事項を知っていなければ、せつかく読んだり、見たりしても納得できない場合があります。

戦前の歴史教育と戦後の歴史学習とは、内容が大きく変わりました。現在、日本の歴史はどのように考えられ、どのような点に問題があるかを知っておくことも必要でしょう。

それだけではなく、私たちは、祖先の代から、いろいろなものを継承してきました。だから、私たちの日常生活のなかには、歴史のなかで培われてきた知識や考え方のものが見方が生きています。平素あまり気付かないこと

がらにも大切なものがあります。

そうした知識を広くもつことは、それだけ自分の生活を豊かにするものだと思います。

そこで、文化講座の一つとして「歴史教養」という講座を開き、多くの方が参加して下さいます。

講座は毎月一回、第二火曜日の午前十時から十二時まで、北部出張所会議室で行ってきました。また時間の関係で受講できない方のために、夜間にも行うことを計画していますが、これはあまり回数が増すんではないです。

現在「古代天皇の系譜」のテーマで行っていますが、いつからでも受講できます。

(網干 善教)

古代史講座

古代史講座という、いささか堅い感じのサークルで、なかみは木簡というこれも耳なれないものを対象にして、一年間つづけてきました。毎月第四土曜日の午後二時から四時まで（講師の都合で前後の土曜日にかわったことも何回かありました。出席者にはその都度御迷惑をかけ、



鬼頭先生と受講生たち（古代史講座）

申しわけありませんでした。出席者はほとんどが主婦の方々で、毎回十五人くらい。木簡とは千二百年前、古代人が紙のかわりに木を使って文書を記したものだ。全部漢字ばかりで説明する講師の方も四苦八苦ですが、なにぶん書いた古代人は、都の宮仕えをする下級の役人や地方からつれてこられて都で働かされていた人々。いわば、今日でいうサラリーマン・庶民といった階層で、中味も仕送りの話、サラリーローンの話、勤務評定の話、租税の納税伝票といったもので、我々には親しみのもてる話で、なんとか一年間楽しく続けることができました。来年度は？ 何をテキストにしたらよいのか？ 三月十日現在、思案中です。

（鬼頭 清明）

拓本を楽しむ会

自分の手で仕上げた作品というものを、ある感慨をもつて眺め、先輩や同人の作品をも一応の見識あるごとく批評し合っては話がはずむ。これが「拓本を楽しむ会」の昨今の会合風景であります。

五月以降、おっかなびつくりの手さぐり実習も回を重ねるうちには、何とか恰好がついてくるとはいふもの、こんなに早く作品らしいものを、生み出し楽しむことができるとは、思ひの他のことでありました。

とにかく、物の表面に凸凹があれば、「拓本にとつてみたら……」と頭が働きます。事実その通り凸凹があれば拓本作品はできるのです。高ノ原駅や、右京団地内にある、当地ゆかりの歌碑。さらに、山の辺の道の一部である檜原神社付近の歌碑群に挑戦した雨もよいの一日もありました。

文化祭の頃に、私たちは一単位取った感じでしたが、前後して新しい仲間も見え、ますます盛会になりつつあります。しかし、残念なことには、戸外作業が最大の仕事であり楽しみであるこの拓本作りは私たちが調子に乗ってきた頃、季節が冬に入ったため、実習は一時お預けの実状にあります。そこで、それに替るもの、あるいは発展として、拓本作品の保存や鑑賞のための「裏打ち」の実習の時間を持ちました。「裏打ち」をしてみると自分の拓本作品も一段と見栄えがするようにも思えました。最近では裏打用ののり付の用紙も市販されていることも知

り手軽さを喜んだりしました。いずれ、「表装も」という意欲はみんなのものですが、これはまだ、だいぶ先の話でありましょう。

「拓本」で楽しいことは刻まれた文字を判読したり、文意、歌意を推量したり、文化遺産に接するうちに、識見もおのずと深められることで、この広がりも、合間を見て積極的に取組んでみたいとも思います。ともあれ、「拓本」は現在、将来を通して最大の楽しみは、刻まれた文字が字形も配置もそのままに、また、石や木や金属の材質の感触をもまざまざと、我が家の壁面を飾っていると
いうことでありましょう。

(寛裕)

人生を語る会

文化協会では、俳句会とこの会とを担当させて貰っているが、どういふものか俳句会の方の参加者はだんだん殖えるのに、この会はどうも殖えない。やむを得ず自坊——平城院——の行事「若い人達と宗教を語る会」と同じ日の二時間後に、平城院で開いている。こうしておく

と、「若い人達と宗教を語る会」の参加者もこの会にずれ込んで、人生論がはずむことがあった。お寺では開いているが、この会はずれでも「人生を語る会」であって布教活動とは一線を画して行くつもりである。お寺の方も同様なのだが、この会は、すぐ何らかの御利益の確かめられる会ではない。どうも現代人は、自分の行為に對してすみやかな「お返し」を求めたがるのだが、ほんとうは「お返し」など欲しがらない行為にこそ、結果的にはすばらしいご利益があると信じて疑わないのだが。ともかく地道にこの会を続けて行きたいと思っている。

(牧野 自然)

絵画の会

皆さん絵を描きたいとは思いませんか。絵を描けば子どもの頃にかえったように心が和み、毎日がとても楽しくなります。「絵画の会」は発会以来ずっと、寛裕先生のご指導で、花や風景や人物を描いて来ました。先生は、美しい水彩画を奈良県展や市展に発表しておられますので、ご存知の方も少なくないと思います。基礎のデッサ

ン、鉛筆画や淡彩画、その他にも紙細工の人形や、年賀状の版画なども試みました。先生に習うと直ぐ上達したような気持ちになるから不思議だと皆さん言われます。

昨年、初めて開催された「文化祭」にも出展出来ました。初心者でも、気軽に出品していただければ良い訳で、額装して陳列して見ると予想以上に立派に見えるものです。また「文化祭」には会員以外の方々の賛助出品もお願いし、第一回の展覧会としては大成功だったと思います。

「絵画の会」は毎週土曜日の午後二時半頃から五時頃まで、当初は平城西公民館で、寒い季節の間は北部出張所会議室で、暖かくなつてからはまた、平城西公民館で例会として行なっています。次回は油絵の初歩の勉強の予定で、担当は私です。会の発起人でありながら、諸般の事情で不十分な点申し訳ありませんが、ご期待に添えるよう努力します。

なおこの会の計画としては、室内での制作実習だけでなく、展覧会鑑賞や、社寺佛像の見学、近隣地区での屋外写生、スケッチハイキング等、お子様とご一緒での行事も、色々楽しいことを考えていますので、皆さん是非

この機会にご入会ください。

(梶野 哲・新創美協・大阪府美協会員)

写真同好会

文化協会が華々しく発足したが、特に写真の分野に興味を持つ会員が多いので、同好会を組織しようという気運があった。永田喜一郎事務局長の肝煎りで、第一回の会合は昨年七月二十四日日曜午前十時から北部出張所の和室で行われた。出席者は、永田氏(右京四丁目)の他、野村氏(第二団地)、松本氏(朱雀六丁目)、鈴木氏(朱雀五丁目)、永谷(右京三丁目)の五名であった。各自の写真歴や得意とする分野を紹介し合った後、今後の同好会の運営等について話合った。一応毎月第三日曜日の午前十時に集らうという事に決った。ただ、お互い勤務や家庭の都合があり、時には一、二回抜けても仕方なからうという融通ある方針にした。なおこの席では、永田氏のモンゴル旅行のアルバム等を見せて頂いた。第二回は、九月十八日に行われたが、小生不在のため、詳細は不明である。第三回は、十一月二十七日第二団地集会所であ

ったが、お互い仕事のため集まれなくて、永田氏と中村氏(右京三丁目)、永谷の三名であった。この席では、各種のカメラや写真機材の情報を交換し、今後切磋琢磨して、趣味の幅を広げて行こうと話合った。

五十九年新年以降は、色々の都合でまだ集会は開いていない。春になれば、被写体も増えるので、本会も増々盛んにしたい。写真趣味の方のみでなく、日常家庭写真しか撮らない人でも、又8ミリやビデオ撮りをされる方も、気楽なこの会にどしどし参加して頂きたい。

現在各家庭には、最低一台のカメラはある筈であるから、文化協会会員の全員が参加されることを希望している。

追記

永田 喜一郎

写真同好会は、まだ、どういふ行きかたをするかきまつておりません。会員の皆様、お気楽にご参加下さい。ご意見を取り入れて、楽しい同好会にしようではありませんか。

(永谷 憲)

読書グループ

昭和五十八年四月、平城ニュータウン文化協会が結成されると同時に誕生した読書グループは、第一回の例会を四月十七日に開催して以来、殆んど毎月例会を開催して来た。グループで読んだ本も十冊になった。

第一回の例会は、読書グループに対する理解とグループ運営の打ち合わせなどを話し合ったが、それ以後の例会のテキストは、会員で相談して決めている。会員に女性が多いこともあって、女性の生き方をテーマとする作品が多いが、二月、三月の例会は一時話題にもなりベストセラーになったイザヤ・ベンダサン著の「日本人とユダヤ人」それに最近出版された浅見貞雄著の「にせユダヤ人と日本人」を読んで話し合った。

現在、会員数は八名であるが、毎回の出席者は六名ほどで必ずしも多いとは言えないが、今後も無理をせず着実に月一回の例会を持ち続けていきたいものである。むずかしい本を読んで賢くなるうというのではなく、楽しく読んで楽しく話し合おうというグループです。一人で

も多くの参加をお待ちしています。

〈例会の記録〉

第一回	四月 十七日	今後の打合わせ
第二回	五月二十二日	大原 富枝著 婉という女
第三回	六月二十六日	宇野 千代著 薄墨の桜
第四回	七月二十九日	渡辺 淳一著 花埋み
第五回	九月 十六日	山崎 朋子著 サンダカン 八番娼館
第六回	十一月 十三日	井上 靖著 淀どの日記
第七回	十二月 十一日	会田 雄次著 夫の論理妻 の論理
第八回	一月二十二日	山本周五郎著 さぶ
第九回	二月二十六日	イザヤ・ベンダサン著 日本人とユ ダヤ人
第十回	三月二十五日	浅見 貞雄著 にせユダヤ 人と日本人

〈会員のこえ〉

木庭 月一冊は確実に読み了せ、会合で読後感等、話し合おうと又新しい発見があり、それは一冊以上の重みとな

り自分の中に残ります。楽しき哉読書会

山元

おっかなびつくり誘われて入った読書会ですが、今では、私の生活の重要な一部になりました。自分と違いう読後感を識るおどろきや楽しみ。本好き仲間の勝手なおしゃべり。出来れば、もつと年令の開きのある方々も加わって下さったらなアと思っております。

南村

子供の時から、本を読み始めると返事ばかりで動かないと、母を嘆かせておりましたが、自分の知らない世界を広げてくれる本の魅力には勝てません。今でも、新しい本の表紙をめくる時は、胸がときめきます。

昨年から読書会にも誘っていただいて、毎月一冊課題の本を読み、皆さんの感想や意見を聞き、一人で読んでいる時とは違う受け取り方も出来て楽しみが倍加、ますます本の虫になりつつある毎日です。

上中

忙しいの一言でなか／＼読書らしい読書をしていなかった私にとって、入会したい反面、不安がありました。しかし、半年たった今、やはり良かったと思ってい

ます。一つは、一ヶ月一回必ず読書会があるので最低一冊は読むようになりました。もう一つ、それは、人生の諸先輩にお会いできたことです。NTに参りまして五年足らず、人付き合いの悪さも伴わない大切な人間関係に欠けていました。よりよい生活のためにも増々本に親しみに接したいと思います。

山内

サンダカン八番娼館を読んで

この本は著者である山崎朋子女史が、三週間あまりおサキさんという「からゆき」さんと共同生活をしながらその体験を綴ったものである。

「からゆき」さんとは、「唐人行」または、「唐ん国行」という、言葉のつまったもので、幕末から明治期を経て第一次大戦の終わる大正中期までのあいだ、シベリヤや中国大陸から、南は、東南アジア諸国をはじめ、インドやアフリカ方面にまで出かけて行って、外国人に肉体を鬻いだ海外売春婦を意味します。

現在では考えられないが家のため食べるために売られて行った海外売春婦たちが階級と性という二重の桎梏のもとに長くしいたげられてきた日本女性の苦しみの集中

表現であり近代日本の底辺の女性史である。

読書会では本題からだいぶそれた話も出るが円熟した人間の言葉（思想的哲学的な深みをもった境地）は教養や学問を積んでようやく達し得るものもあればおサキさんのように体験を通してのみ達し得るものもある自分たちはどのような生き方をして来ただろうか等々話はそれからそれへと時間の経つのもわすれてしまいそうな楽しいひとときでした。

大橋 三十年近く読書運動をやって来て、育てたグループも二百近くになりますが、自分の住む町で、自分も一会員として楽しく語り合えるグループをつくるのが念願でした。六十才の還暦の年にやっとできました。最高の気分です。

童話研究会の会

文化協会発足以来、童話研究会の会結成をめざしてきましたが、今のところ希望者の申込みがありません。

奈良市には、私の所属する奈良市児童文化研究会があ

り、会員三十名、約五十年の歴史をもつ県童話連盟の奈良支部としてがんばっています。

現在、児童文化研究会では、視聴者参加の童話教室を毎月第一土曜は西部公民館、第二土曜東登美が丘公民館、第三土曜は三笠公民館で行っています。

平城ニュータウンでも、お話好きな子を集めて、奈良の民話や創作童話などを聞かせたり、やらせたりしたいと思っていますが、現在毎週の過密なスケジュールで、どのようにして時間を生みだすか苦慮しています。

会は結成できませんでしたが、個人的では、十一月の文化祭に、右京小で「さるの橋」の童話を、また夏休みには教育懇談会主催の童話会で、バンビーの子らを集め「十四匹の小羊」「三枚のお札」など、世界の名作童話や奈良の民話をいたしました。

来年は、第四土曜日などにどっかの集会所を借りて、お話をしたいものです。

お話好きのお母さんや保育園・幼稚園・小学校の先生方一緒にお話教室の仲間を作りませんか。

中国語講座

今年は例年になく寒い。外の雪を白く照らし出して、北部出張所会議室に明明と灯がともると、さあ、中国語の授業。您好！ 你們好！（今晚は！）の挨拶で始まる。今天很冷。（今日はとても寒い）と、身近な出来事が授業の材料となったり、中国の大きな地図を広げての下條先生の中国での話等、のびのび授業。中国語の授業は、中国語の難しさ、面白さと共に、中国への確かな認識と同じ漢字を使う民族として、私達の最も親しくすべき友人である事を、教えてくれる。更に、私達が得たものは、文化協会中国語講座が出来る迄、会話も交わした事も無かった方と良き友となれた事。

五人の生徒で始まった中国語講座。只今も五人。仕事帰りの方、主婦、学生のがんばり五人組？。「日本と中国の歴史に興味がある」「昔から中国という国が気になっていた」「英語、仏語だめだったので中国語に挑戦」と中国語へのきっかけは様々。ぜいたくな授業の割に、平均年

令三十？才の生徒の進歩は日進午歩。しかし、早くもマスターした中国語を使って、あの広大な中国の大地を、シルクロード、万里の長城と旅してみたいという想いは高揚しつつある。

下條先生のやさしい御指導の下、四月から始まった「たのしい中国語会話教室」の教科書は、終わりのページに近づいている。今は獣のうなり声のようではあるけれど、そのうちきつと、部屋の窓ガラスを通して、流麗な中国語が聞えてくるでしょう。再見（さようなら）と次の出会いを約束して授業は終わる。

音楽をたのしむ会

昨年はあまり具体的にならずにすぎてしまいました。メンバーが働いている者が多かったり、音楽をたのしむといっても非常に幅広すぎて、当初、夢ばかりを話し合っていた様な所もあります。きちんとした役割分担もできる所までいっていませんでしたし、幅広い分野のどの辺から手をつけていくかも充分話し合う時間をとれませんでした。この会を通して、日頃の疲れを解消したいと

思う所もあつたりでなかなか何かを演奏したり、うたを歌つたりという事になりにくいのも働く者が多いせいでしょうか。あれこれ考え続けてきた一年でしたが、今年は、具体的に演奏したい希望のぞみをかなえる事と、生活に疲れたり、子育て、労働で疲れたりしている我々の心が元気になる様な「うた」をうたいたい人たちの為に、歌ごえをしていく事を考えております。まだまだ不十分な会ですが、出来る事から、一步一步始めていきたいと考えております。

今後とも会員の皆さまのお力添えを宣しくお願い致します。

(高橋 三千子)

コーラス それいゆ

歌う事は、人の心に潤いを与えます。そして、同じ歌うのでも、一人で歌うのと、多勢で歌うのでは豊かさが違ふと思います。

コーラスは、異つた考えを持った多くの人々が、声を合わせて、一つづつの曲を造り上げてゆくものです。そ

れ故に、人の心の和が、とても大切なのです。考え方の違いは違いとして、助け合いながら、音楽を造り上げること、そして、思うように歌う事が出来た時の喜びは、コーラスを愛する者にとって何物にも代え難いものなのです。

一人で気儘にしている方が、ずっと楽でしょう。でも、様々な難関を潜り抜けてこそ、喜びも大きいと信じます。私は、コーラスを通じて、心の和を結び、歌う仲間を輪を広げ、一人でも多くの人に、歌う楽しさを知っていただき、より一層、潤いのある日々を過ごしていただけるように、願っております。

(永見 純子)

「それいゆ」コーラス参加報告

昭和五十八年二月 奈良市公民館学習発表会参加

(市民日より写真のる)

十月 文化協会文化祭参加

十一月 奈良市ママさんコーラス発表会参

加

十二月 奈良少年院文化祭参加

少年の笑顔に教えられるものあり

すばらしい指導で元気に歌っています。美容と健康に皆様も一緒にいかがですか。

▽場所 平城西公民館 ▽日時 毎週木曜日 朝十時より
▽費用 100円（運営費その他）

フォークギター

昨年暮れに第二団地集会所で毎週水曜日、午後八時から一時間やっていますが、寒くなつたので一時、休憩中です。四月になれば再開するつもりです。

初心者のフォークギター教室ということでやっています。主にピックを使ってズンチャカズンチャカと、演歌から田原俊彦の歌まで何でも弾いて歌おうという次第です。

連絡先 朱雀五丁目三〇―三〇一 奥 長生

電話七一〇〇四六

右京二丁目一八一―二〇五 宮城 宏

電話七一―一六二四

詩吟部

文化協会の詩吟部として昨年四月二十日、私たち数名の会員で発足し、毎月第一、第二、第三水曜日午後一時から北部出張所の和室で練習に励んでいます。奈良県下の詩吟愛好家は、約一万名前後といわれていますが、青少年の非行、校内暴力等統発している世相にあつて詩吟を愛好している人、その家庭には一切非行はないといわれています。それは「三歩下つて師の影を踏まず」の精神が吟界には厳然としているからです。

詩吟の会には必ず正面に国旗を揚げ、開会には国歌を斉唱し、敬礼して発声するのを習わしとしていますので、自ら精神修養になつていくのだと思います。

私の吟の先生は私より二十五歳も若い人ですが、人格識見はもとより人情、孝心に厚く、私は、この若い先生を心から敬服しています。

こんな立派な先生との出会いは、詩吟のご縁で、吟を習つて良かったとつくづく感謝しています。

また吟ずるには詩の意、作者の心を吟に生かすことに

よって真価が発揮でき、聞く人に感銘を与えるので、作者の経歴、当時の世相、歴史、詩意など研究しますので、老人には頭の老化を防ぐ効果があります。

大声で発声することは諸々の煩雑さから開放され、健康には何よりの良薬となりますし、それにも増して趣味で結ばれる多くの友人に恵まれることがうれしい収穫ともなります。

(吉本 堤瑞)

囲碁同好会

昨年発足した文化協会の同好会一部門として、囲碁同好会も活動してまいりましたが、この一年間を振り返ってみますと、毎週日曜日に行っている対局の外に、

- ▽奈良市公民館対抗囲碁大会参加。
 - ▽文化祭参加行事としての囲碁大会
 - ▽同好会新春囲碁大会
 - ▽平城開発事務所職員との対抗試合
- などを実施してまいりました。

碁仇は憎しも憎し、懐しい、とは誰のことばであったか、古い記憶に耳をすまし、日本古来から続いている、

伝統ある囲碁が近年盛んになりつつあるのはなによりです。

碁はよく人生の縮図にたとえられる。

布石での構想力、最も実力が問われる中盤での局面では、判断力、決断力、など総合的なヨミが重要視され、終局におけるヨセは、緻密性や計数力が問われる。

碁の形態も色々と布石もなく初めから戦いに始終することもあり、何局打つても決して同じ棋譜は出来ないように碁は無限であり定石は無数にある。

プロ棋士などの打碁では、最後までバランスを保ちながら打ち進められ終局において半目勝負というののもよく見うけられる。

誠に芸のすばらしさである。

すでに碁に親しんでおられる方も、碁に興味をおもちの方や、これから始めたいとお考えになっておられる会員の皆様には、この機会にぜひ参加して載くようお待ちしております。

(中村 正雄)

星を見る会

昨春の発足より随時の集まり（観測会）と月一回の定例勉強会を原則として、活動を行なってきました。会員は子供たちから大人まで広い年齢層で、限られた時間帯、場所の問題などいろいろな制約の中で、しかし天文の世界のほんの一端にふれてみる事が出来ました。星座のはなし、土星の輪から月のクレーターや、アンドロメダ、オリオンの大星雲など、大いに感激したり、逆に期待が先行していてガツカリしたり、いろいろでした

星をはじめ天文の世界には、ひと皆んなそれぞれに興味と関心を持った経験のあるものですが、多くの場合必ずしも知識としてまとまったものを身につけているわけではありません。まして日々生活の中で、夜空の有様や時おり伝えられる天文のニュースなどが具体的な形で思い描かれるものでもないようです。

昨年は天文の分野で、画期的な話題の多い年でした。これらに言わば最前線のニュースですが、同時に夢ふくらむ話題に違いありません。これらを楽しみながら、初

歩を学んでいくことが当面の会の活動になるでしょうか。天文のサークルは全国にたくさんあり、それぞれに活発な活動を展開しています。そうした集まりとは比べるべくもありませんが、このニュータウンで、多くの方々が天文の世界に興味を持ち、宇宙の美しさに夢をはせられますよう期待致します。

（此下 享）

アマチュア無線の会

アマチュア無線（HAM）は趣味の王様といわれています。電波を使って、電話・電信・テレビ・ファクシミリ等の方式で、日本全国あるいは、外国の同好の志たちと通信ができます。

電波の形式と条件が良ければ懐中電灯くらいの弱い電力でも海外通信が可能となります。

このニュータウンにも何局かのHAM局があります。HAMの会は、無線通信を行なう中で親睦をはかり、また災害等によりこのニュータウンが通信孤立をする場合には、非常通信を行ない安全の確保をめざす等の目的を

持ち、現在すでにHAMを行なっている人、これからHAMをしたいと考えている人達に参加をよびかけていますが、残念ながら未だ、定期的な会合を持つには至っておりません。

昨年十一月第一回文化祭には、JH3HBX（赤坐右一）JA3RPQ（三野行夫）、JG3CMT（上村弘誠）JG3MHR（大路隆三）JR3CAA（赤坐由美子）名氏の協力を得てHAMの展示及び公開通信、マイコン実演などを行ないました。

観客は余り多くなかったものの、マイコン占いなどには人気が集まりました。

今後同好の志を募って行きたいと考えております。

ご連絡下さい。 DE JA3PEH

（浅田 旭彦）

地酒を味わう会

それほど旨きかと人の問ふたらば

なににたとへん この酒の味 若山 牧水

酒の味はともかくとして、文化協会創立の主旨たる、

地域住民の交流親睦を深めるには「地酒を味わう」同好会がその最たる一つでしょう。

喜びにも悲しみにも「酒」。日本人には無くてはならないものの一つでしょう。未知の者でも一度盃を交じわれば十年の知己の如しとか、酒のもつ有難みでしょうか。されば例会ごとに違つた地酒を味わい、其の風味にわいわいガヤガヤ、ほど良く酔うほどに話題にこと欠くことなく、いつも定刻をオーバーして早々に閉会を宣して引上げる始末です。

会員も当初十六名でしたが、現在二十八名、夫婦二組を加えて女性三名、男性二十五名です。年令層も昭和の三十代から大正、明治と誠に幅広く社界的にも亦それぞれ活躍の人々ですから知識吸集の場でもあります。

さて一年を振り返って見ましよう。

▽ 四月二十三日 北部出張所会議室

▽ 五月 十四日・六月十一日

会員中村氏宅にて「さつき」観賞を兼ねて

を兼ねて

▽ 七月 十一日 浄瑠璃寺門前民宿一泊納涼を兼ね

て



ちよいと聞酒（葛城酒造で）

- ▽ 八月 お盆で休み
 - ▽ 九月 十日 第二団地集会所、永田氏「モンゴル」旅行写真展を兼ねて
 - ▽ 十月 八日 味杉にて
 - ▽ 十一月二十三日 浜口氏宅観菊会を兼ねて
 - ▽ 十二月 十日 味杉にて、忘年会を兼ねて
 - ▽ 一月二十一日 渡辺氏のあっせんにて「明ごころ」酒蔵見学
 - ▽ 二月 十一日 網千氏の案内で、知人の葛城酒造 見学
 - ▽ 三月 十日 味杉にて
- 会場での地酒は会員の出張や旅行等の折その他の銘酒を持ち寄る等にて満して居りますが、特に事務局長であり当同好会員で日本名門酒会大阪支部会員の永田喜一郎氏が地酒の入手や会場の設営にお骨折りを頂いて、スムーズに楽しい同好会を催していることを、会員一同と共にこの会誌を通じて厚く御礼を申し上げます。今迄に味わった銘柄は三十種程です。

浜口 利酒ききざけも猪鹿蝶いのしかまどうを着にし

文化協会員である以上、酒ばかり飲んでる訳にはいかぬ。時には川柳と酒れ込んでみたが、字余り、それでも、下手は上手の始まりと心臓の強いこと、この上なし。その内俳句、短歌の会より勧誘される事を楽しみに今日も左手の運動に勤しんでいる。

地酒の会も月一回ではと、さつき、紅葉、菊に牡丹とあらゆる肴を見つけては、集まり一杯と云うところ。けっしてグラス片手に花札賭博と云うことではありません。

時には句会も開き又、朗朗と詩を唄い、文化協会、地酒の会にあり、と意気を上げ、芭蕉が奥の細道の発端に引用した李白の詩、春夜桃李園に宴するの序、の最後を思い起せば詩など読む者はないと、こうゆう事はやめにして馬鹿を云っては、一杯と云うのが実状である。なんだかんだと理由を付けて一杯飲んでる飲兵衛の会ですよ。と、おっしゃるでんでん虫の眼鏡をかけた先生、仕事の予定を変更したのか今日もここにこ笑っているが、左手はかなり忙がしそうである。

利猪口をコップに変へるじ、だけの会

松本 我が家には銘柄の違う各地の地酒が、一番寒い部

屋の押し入れに五、六本は常に緘を開けて並んでいる。

出石焼の大きなそば猪口を並べ、きのうはあつちがウマイと言っていたのが、今日はこつちがウマイとひとり合点。ある日、子供らを前にして、どの酒か当てるから飲んでおいでと奥につきに行かせたら、みんな嬉しそうな顔をしながらやってきて「これ何のお酒かわかる？」と差し出した。「八海山やる!」「当たり前」ほんならもう「ぺん」……ドタドタ……「これ何と思う」「北雪!」「当たり前!」あんまり次々と言い当てるもんだから、「ワアすごいナお父ちゃん!」とみんなソンケイのまなざし。子供らの尊敬を集める酒の飲み方の一席、オソマツでした。

谷口 先ず例会を蔭で支えて下さった方々に感謝します。

甘党の家に生まれ、育った私には、お酒に大変魅力があります。同好会の呼び掛けに『御婦人もどうぞ』とありましたので、さっそく「お酒入門」のつもりで入会しました。戸惑いを感じながらも楽しく参加しています。

七月例会は、岩船寺、浄瑠璃寺を訪ね、門前の民宿が会場でした。夕食、朝食を共にしたせいでしようか会員同志の親しみも深まったように感じました。毎月の例会を

「楽しいものに」と心遣いをしてくださっている幹事の方々と、その御家族の暖かい御協力で一周年を迎えることが出来ました。心よりお礼を申し上げます。

(吉田 篤史)

公園を考える会

昨年十一月、二十数名の住民参加のもとに「公園を考える」シンポジウムが開かれました。

京都府との県境に「高の原の古道」が計画されているが、どんな散策道になるのだろうか。神功の池の公園を白鳥やかものいる公園にしては。外環道路南面丘陵が特別保存区域に指定されたのだから野鳥観察の自然公園に発展させてはなど要望が聞かれる中で、私達の手でしっかり造り育てていこうという願いのもとに開かれたシンポジウムでした。

当日は、奈良市から春日稔都市整備課長が、公団からは垣見究吾平城開発事務所事業計画課長が講師として出席され、両講師から「奈良市の公園づくりの現況と課題」「歴史と緑の街…平城二、ユータウンの街づくりをめざし

て」と題してスライドや図解説明もまじえ約三時間にわたる話を聞きました。

その日は両講師から話を聞くだけにとどまりましたが、次回(五月に予定)は自由な討論のもとに「公園を考える会」をどのようにすすめていくかも検討していただきたいと考えています。

(田中 幸夫)

園芸同好会

文化協会が出来た時、文化的飢餓時代に育った私には心がワクワクする程うれしく思いました。なにに入ろうかと色々迷った末、選んだのが園芸です。第一回は、四月二十四日の日曜日です(第四日曜の午後)に決まりました。先生は、ご近所の西峰さんで、七、八人集まり心安く話され、座談会の様な形式で質問を色々出したり、菊作りの準備について教えて下さり、帰りは先生のお宅へ寄り、実物を色々見て説明して下さったり、欲しいものがあればといわれ私は春ランを一鉢いただきました。

二回目は五月二十二日で、サツキ・ボケ・梅など色々

と教えて下さり、質問を交したりしました。六月は先生が選挙でダメ、私も第四日曜は、奇数月で出られず、七月は休みましたら先生一人だったらしく、八月の暑い日は先生と私一人だけで、皆に電話したのですが都合が悪く一時間位待ちました。帰りに先生のお宅へ寄り、また見せて頂き、説明して下さいました。そのうち先生の都合も悪かったり、そのままになり、文化祭の折も四人位の会員が持ち寄り出品し、一般の方々のもあり形だけ揃えました。が、平素より育てたものを皆で持ち寄ったら、もっとすばらしかったと思います。

一年間のしめくりとして事務局長のお世話で三月二十日午後一時半より船田先生を迎えて「家庭園芸あれこれ」というテーマで第七回セミナーが開かれ同好会員でない方々も多数ご参加がありました。

家庭園芸という本で、土壌作り・肥料・気候・繁殖・病虫害など二時間半に渡り、講議と質問をまぜてとても有意義な半日でした。また新しい先生を迎え、春から楽しい園芸クラブを作りましょう。

(岡田 越子)

奈良大和路を見る映画会

「奈良大和路」を主題にした映画会を、ニューメディア時代に対応すべく、「奈良ビデオクラブ」と改名して新しく活動を開始する。

平城ニュータウンの住民は、全国各地より移住して来た人達で、今日まで修学旅行か、観光旅行にて「奈良大和路」を、一度か二度しか訪れたことのない人達ばかりです。そんな人達に「奈良大和路」を、奈良市の新市民として十分理解してもらい、そして住民のコミニケーションをも深めるために、私の知人が「奈良大和路」に関連する映画を多く製作し所蔵しているので、その映画を借り上げ、上映する機会を探していました。昨年、平城ニュータウン文化協会が設立されましたので、それを機に文化協会の一サークルとして毎月一回定期的に開催すべく計画、北部出張所会議室にて、昨年十二月に「飛鳥」「山の辺の道」「歴史の道」、四月には「東大寺昭和修理」「いかるがの里」「吉野」を上映しましたが、映写機、フィルム等その準備に大変な手間がかかるのに、無

料にしても宣伝不足のせいか、観客が二回とも十数名しか見に来てくれず、しかたがなく、この映画会の開催を中止しておりました。

今後は万年青年クラブ会員を対象に大型カラーモニターにより「奈良大和路」映画の鑑賞会を、また身体障害者を対象に「ワープロ教室」を開講すべく、それに必要なビデオ機器を購入しました。その機器でビデオテープの鑑賞、製作、ダビングも出来ますので、平城ニュータウン文化協会の会員にもその機器を広く利用してもらいますから、各サークルで必要な時には左記までご連絡して下さい。

(野村 信治)

連絡先 奈良市右京二丁目一〇七 野村 信治
電話 七一一六七六二・七一一〇八二

短歌会

短歌入門講座の開講したのは、他の部門より一ヶ月遅れて昭和五十八年五月十七日からである。それより毎月第三火曜日に行くことになった。当初のメンバーは、永田喜一郎、西山佐代子、三井サチ子、田中綾子、木庭和

子、大浦小枝子、古川千鶴子、増井由起子、岡田越子、九名の諸氏である。初心者にわかり易く親しめる方法で、永田氏の意見もあり、難解で専門的なものでなく、現在の生活に即した平明な日常的作品をまず見てゆこうと云うことで、新聞歌壇(筆者選による)の作品を取り上げることにした。最初に掲げた数首に「共通するものは何か」という私の問に対してそれぞれの答があり、永田氏の「それは愛だ」との答は、私の云わんとする短歌の原点を的中した。確かに記紀に遺されている古代歌謡の多くは、愛を伝達する為に生まれたものである。先ずこの講座の入門者全員が「短歌は愛を原点」とする認識のもとに、和氣あいあいと机を列べた。第二回(六月二十一日)第三回(七月十九日)まで新聞歌壇作品を教材として初歩的なものを学ぶと共に、写生を基盤として実作をすることにし、素直で純な作品を各自提出、第四回(八月二十三日)は盆月だから休講にしてはとの意見にも全員反対する程の熱心さで、第五回(九月二十日)からは互選互評、爾来めきめきと皆の実作力、鑑賞力が進歩しつつ現在第十一回に至っている。途中からの入会者は、宮川恵美子、山元洋子、久門富美の各氏であるが、

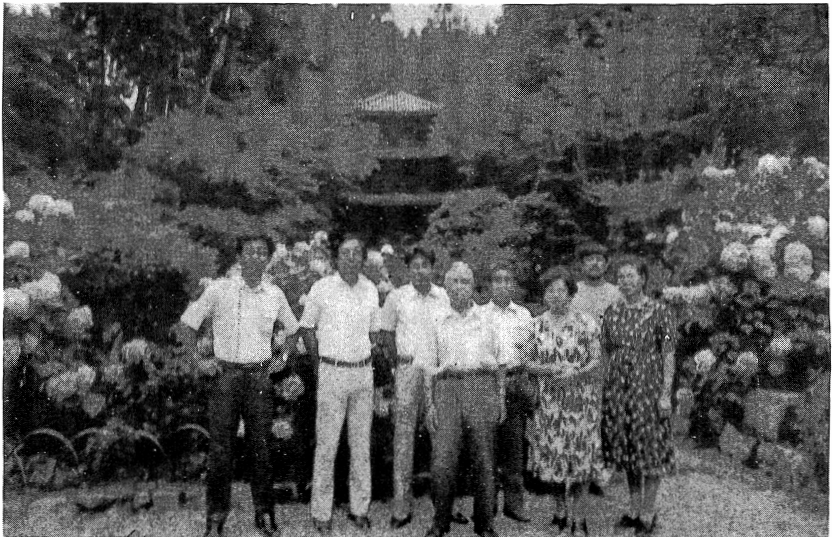
すぐ親しい仲間となり、全員相互の研鑽を積みつつ、短歌実作の喜びによって、おのがじし人生を有意義に過ごされん事をねがうものである。

(左門 璃晃)

俳句会

“受け身”の文化の氾濫している現代の中で、“仕掛け”の文化、つまり自分で創り出すということが、“生き甲斐”につながるという信条で、最高年令八十一才からの皆さんと作句をともにして、もう半年を過ぎた。参加してもらえる皆さんの顔を拝見していると、このことが確かめられてくるように思っ心強く思っている。生活がますます便利になってついこの住みよい街の家庭にこもりがちの他の多くの皆さんにも、一歩外に出て自然に触れ、この手軽な文芸になじまれることを祈っている。

(牧野 春駒)



アジサイの岩船寺で (58, 7, 16 地酒の会)

役員名簿(五十八年度)

会長

副会長

事務局長

次長

会計

常任理事

橋本輝彦	中村正雄	田中幸夫	高橋三千子	此下享	鬼頭清明	川口勇	加藤育生	梶野哲	林昭博	松岡礼一	永田喜一郎	下條新太郎	孝田有禪	大橋一二	網干善教
------	------	------	-------	-----	------	-----	------	-----	-----	------	-------	-------	------	------	------

理事

監事

野村信治	太田豊臣	吉本音市	吉村惣五郎	山下良吉	宮城宏	前川良雄	細田雅代	田後勝三	鈴木政治	佐野匡男	勝島武司郎	内田和夫	浅田知里	山下秀之	山内梅乃	牧野自然
------	------	------	-------	------	-----	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------

文化協会ニユース配布委員

右京地区

二丁目 左京 真鍋さとみ

三丁目 川口 勇

四丁目 松岡 礼一

五丁目 岡田 越子 榎田 諒子

神功地区

一丁目 此下 享

二丁目 梶野 哲

三丁目 木庭 和子

四・五丁目 此下 亭

朱雀地区

一丁目 (含三丁目) 大浦小枝子

二丁目 皆藤るみ子

五丁目 中田 光子

〃 第一住宅一―一八 二九―三九 樋泉 淑子
〃 第一住宅一九―二八 橙 公栄
〃 第二住宅 永井 圭子
六丁目 芝田美代子

会 則

第一章 総 則

第一条 この協会は、平城ニュータウン文化協会とい
う。

第二条 事務局は、平城西公民館に置く。

第二章 目的及び事業

第三条 会員の研究・創作発表・知識の交換並びに会
員相互間及び他の文化団体との連絡提携の場
となり、総合文化に関する進歩普及をはかり、
地域文化の発展に寄与することを目的とする。
第四条 前条の目的を達成するために、次の事業を行
う。

一、講演会、研修会、展覧会、発表会、文化
講座等の開催。

二、関連文化団体との連携及び協力。

三、研究の奨励及び研究業績の表彰。

四、会誌の発行。

第三章 会 員

五、その他、目的を達成するために必要な事
業。

第五条 平城ニュータウンに在住又は勤務する者で、
協会の目的に賛同する者とする。会員の種別
は次のとおりとする。

一、正会員 年間会費一、〇〇〇円

但し、高校生五〇〇円

二、賛助会員 この協会の趣旨に賛同する者
で、年間会費五、〇〇〇円以上納める個人
又は団体とする。

第四章 役 員

第六条 協会には次の役員を置く。

会長一名、副会長三名、常任理事若干名、事
務局長一名、事務局次長一名、会計一名、理
事若干名、監事二名

第七条 理事は、正会員中より選出する。

二、会長、副会長、常任理事は理事の互選で
定め、総会の承認を得る。

三、事務局長、事務局次長、会計は理事中よ

り会長がこれを選任し、総会の承認を得る。

四、監事は会員中より二名選出する。

第八条 会長は協会を代表する。

二、副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは代行する。

三、理事は理事会を組織し、協会に関する事項を審議し執行する。

四、常任理事は理事会の決定に基づき業務遂行に当たるとともに、総会で決議した事項を執行する。

五、事務局長は会務の遂行に関する理事会、常任理事会等の決議に基づき全般の事務連絡処理に当る。

六、事務局次長は事務局長を補佐する。

七、会計は会計事務を処理する。

八、監事は会計帳簿を監査し、通常総会において報告する。

第九条 顧問・参与を置くことができる。顧問・参与は理事会の同意を得て会長が委嘱する。

二、顧問・参与は会議に出席して意見を述べ

ることができ。

第一〇条

役員任期は二年とし、再任を妨げない。

二、補欠により選出された役員任期は、前任者の残任期間とする。

三、役員はその任期満了後でも、後任者が就任するまで、なおその職務を行う。

第五章 会議

第一一条 理事会は必要に応じ会長が招集する。但し、理事の三分の一以上から会議の目的を示して請求のあったときは、理事会を招集しなければならない。

二、理事会の議長は、会長又は会長の指名する者とする。

三、理事会は、理事の二分の一以上出席しなければ議事を開き議決することができない。

四、理事会の議事は、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

第二二条 常任理事会は会長、副会長、常任理事、事務局長、会計によって構成し、必要に応じ会長が招集する。以下理事会に準ずる。

第一三条 通常総会は、毎年一回会長が招集する。

二、臨時総会は、理事会が必要と認めるとき
会長が招集する。

三、総会の議長は、総会出席者の中から指名
する。

四、総会の議事は出席者の過半数をもって決
し、可否同数のときは議長が決する。

第一四条 次の事項は通常総会に提出して、その承認を
受けなければならない。

一、事業報告及び収支決算

二、会計監査報告

三、事業計画及び収支予算

四、その他、理事会において必要と認められた事
項

第 六 章 会 計

第一五条 経費は会費並びに補助金、寄付金、その他の
収入による。

第一六条 会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月
三十一日に終る。

第 七 章 会 則 の 変 更

第一七条 この会則は、総会の議決を経なければ変更す
ることができない。

第 八 章 補 則

第一八条 この会則施行についての細則は、理事会の議
決を経て別に定める。

第一九条 この会則は、昭和五十八年二月二十七日から
適用する。

59年度総会 「層富」発行へ 新事務局長に梶野氏

五十九年度総会は、一周年記念祝賀を兼ね、二十二日午後一時から奈良市北部出張所会議室で百人が参加し開かれた。五十八年度事業、決算、会計監査報告のあと、講座、同好会の継続開催、会報「層富」の発行など五十九年度の事業計画、予算を決めた。

また永田喜一郎事務局長の健康上を理由の辞任を承認、新事務局長に梶野哲氏（自治連合会長）を選任した。引き続き、永田氏に文化協会設立以来の功労をたたえ感謝状と記念品が贈られた。

総会後、「キトラ古墳と高松塚の壁画」と題して、網干会長がスライドをまじえ一周年記念講演をした。

五十八年度事業報告

一、設立の経過

平城ニュータウン地区自治連合会は多年の懸案である文化協会の設立を、五十七年度活動方針に入れて、その設立準備のことで同文化部協議会を数回開き、理事会の決定を得て地区内有識者に呼びかけ発起人会を結成し、五十八年二月二十七日設立総会を開催した。

自治連合会では、地域住民のニーズに応じて、設立総会までに並々ならぬ苦労があったようである。先ず自治会長へ発起人推薦依頼、文化同好クラブの調査、自治連合会の文化委員会は、設立準備委員会として数回開催され、設立趣意書・会則などの検討、発起人総会開催、役員構成協議、設立総会の期日並びに会場決定など準備工作は着々とすすめられた。

設立総会が間近になって会長に内定した関西大学網干教授は「奈良の文化的風土に魅せられて移り住んだ人も多い。住民全体で文化水準の向上をめざしたい。」と意欲を表明し、設立総会のあと公開記念講演会を企画し、網

干教授が「わが町と周辺の歴史と文学」のテーマで蘊蓄を傾けた講演をされた。この地域ならではの催しで、会長白らの出演に、参加者には多大の感銘を与え幸先よいスタートを切った。

住民自身が相寄り企画し、地域に根ざした文化を大切に、考える・創造するなどの発想があり、展開していく楽しさを、身近かな生活の中で育てていくことを意図した、言わば、住民の手で作られたユニークな文化協会であり、その活動ぶりについてはマスコミも注目している。

二、文化協会の活動

一年を通じての活動は多彩なものであった。中心となるものは講座、同好会で、一部を除き殆んどが、平城ニータウン地区内在住の講師または担当者で、会場は、市北部出張所会議室を中心として平城西公民館、第二団地集会所などを利用している。なお、詳細は別掲講座、同好会一覧表を参考に、受講希望者はそれぞれの担当者または、事務局へ申し込むことになっている。

月一回位の開催が予定されているセミナーにも参加で

きることになっている。

五十八年度中に開催したのは、次のとおりである。

- 第一回 シルクロード(西城)の自然と文化 関西大学教授 網干善教先生
- 第二回 私と楽器 平城山民族楽器研究所々長 大西高明先生
- 第三回 奈良の民話 民話研究家 阪本 学先生
- 第四回 高校生は親に何を望んでいるか 県立平城高校 橋本孔延先生
- 第五回 子どもの読書を育てる環境づくり 元滋賀県立 大橋 三先生
図書館次長
- 第六回 家庭の健康管理 奈良女子大教授 山本公弘先生
- 第七回 家庭園芸あれこれ 園芸研究家 般田忠康先生

また、北モンゴルを語る(永田喜一郎)旅行報告会と、春・秋に「大和路見学会」が網干会長の案内で行うという趣向、なお、これには事前レクチャーもやり、予備知識も字ぶという念の入れよう。昨年秋の大和路見学会は雨のため翌年まわしになったために、今年春の行事として五月二十日に実施される。

秋の文化祭は第一回として、十一月三日の文化の日から六日まで第二団地集会所、右京小学校体育館、市北部出張所会議室、平城西公民館、住友・南都各銀行ロビーで大会、上演、展示の各部門にそれぞれ多彩な行事が繰りひろげられ、多数の参会者を楽しませて成功裡に幕を

閉じた。なお文化祭特別文化講演として、朱雀在任の国立文化財研究所室長木下正史氏による「飛鳥の水時計遺跡の発掘」の講演があり、わが平城ニュータウン文化協会地域における講師陣の層の厚さを感じさせた。

本文文化協会の事業の中心となっているのは講座、同好会の運営である。

わが文化協会の講師陣について一寸紹介してみると、考古学の網干善教・鬼頭清明、中国語の下條新太郎、人生を語る会・俳句講座の牧野自然、短歌の左門璃晃、図書館学の大橋一二、童話・民話研究家の孝田有禪の各先生などです。その他絵画の梶野哲、星を見る会の此下享、公園を考える会の田中幸夫の各氏は、自治連合会の会長、事務局長、顧問のかたわら同好会の世話役でもあります。わが文化協会の講座、同好会は実に多様・多彩であり、よくマスコミに話題を供しているものに、ユニークな「地酒を味わう会」があり、吉田篤史氏を中心に全国の地酒の資料を集め、各会員は研究心も旺盛、珍しい日本酒を賞味している。

以上の他にも囲碁、詩吟、拓本、園芸、コーラス、マイコン、アマ無線などの同好会文学のソフトな味わいを

もつ読書会、短歌入門、俳句入門なども婦人層の人気を集めている。

自治連合会、スポーツ協会との共催行事として「新春を祝う会」が一月八日（日）市北部出張所会議室で開催された。網干会長から寄贈された新年のお祝い「春鹿の樽酒」を、共催三会長によって鏡開きが行われ、地区内各種団体の各位が一堂に会し名刺交換互礼、懇談と胸襟を開き、誠に意義ある催しであった。

三、会員の動向と会の財政

五十八年度会員は、当初予算では約三百名（賛助会員、高校生会員等含む）を見込んでいたが、実績は四百名余りとなって順調な伸びを示している。しかし、会員の中には何れの講座、同好会にも参加せず、また、殆んど毎月開催している「セミナー」にも参加していない方も多いようであるが、「平城ニュータウンに住んでよかった」と思ってもらうには、手近かな、そして関心のある講座や同好会には是非参加してほしい。他の地区から羨ましがられる多彩な講師陣を容し、住民の手作り「教養講座」や、ユニークな「同好会」、そして「セミナー」行事に

もいろいろ趣向をこらして企画されている。

会の財政は会費、寄付金、補助金などで賄っている。

中でも会員の安定数の確保には大いに関心をもっている。

会員は、文化協会をよりよくするために協力し、会の活動内容をよく知り、積極的に参加されることが望まれる。

五十八年度収支決算及び、五十九年度予算案は、別掲の通りである。

会報の発行も、会の事業の重要な事項である。編集会議を何回も開き、よりよき会報作りには格段の努力が傾倒された。会報名、会章の制定などについては、公募した応募作品を参考に役員会で検討の結果、会報名は「層富」(そふ)、会章は表紙掲載のものに決定した。

……………日誌……………

設立経過

五十七年八月二十二日 平城ニュータウン自治連合会役員会で文化協会設立について協議

九月 六日 第一回文化委員会…発起人、趣

意書について

五十七年九月 十二日 第二回文化委員会…会則案、設立日程について

九月十九日 第三回文化委員会…発起人、趣

意書、日程について

十一月六日 第四回文化委員会…発起人の内定、会則案について

十二月六日 発起人会

設立総会

五十八年二月二十七日 文化協会設立総会

役員会

五十八年四月 十一日 第一回常任理事会…具体的方針、役割分担について

六月 十九日 地区委員・同好会世話人会

七月二十五日 第二回常任理事会…会報名・会

章について、秋の文化祭について、担当者会議…文化祭について、

同好会の現況について

九月 十八日 第三回理事会…文化祭について

十月 四日 第四回常任理事会…総会開催に

ついで、会報の発行について、
会費納入方法について、

三月二十日 第七回…船田忠康・家庭園芸あ

れこれ

文化祭

五十八年十一月三日

第一回文化祭…会場（北部出張

五十八年 九月 十日 特別…永田喜一郎・北モンゴ

ルを語る

十一月六日

所第二団地集会所・住友銀行・

講座・同好会（報告は別掲）

南都銀行）

見学会

新春を祝う会

五十八年五月十五日

春の大和路見学会…飛鳥方面・

五十九年 一月 八日

文化協会、自治連合会、スポー

網干先生指導（レクチャー五月

ツ協会共催

七日）

セミナー

五十八年四月二十四日

第一回…網干善教・シルクロー

五十八年 十月 二日

秋の大和路見学会レクチャー

（現地見学会は雨天のため中止）

ドの自然と文化

ニュース発行

六月二十五日

第二回…大西高明・私と楽器

五十八年 四月 八日

第一号

第三回…阪本 学・民話と私たち

六月二十三日

第二号

十月 一日

第四回…橋本孔延・高校生は親

七月二十七日

第三号

に何を望んでいるか

十月 一日

第四号

五十八年十一月二十六日

第五回…大橋一二・子どもの読

十月 十五日

第五号（コミニティ／高の原）

書を育てる環境づくり

五十九年二月二十九日

第六号

五十九年 三月 七日

第六回…山本公弘・家庭と健康

管理

58 年度 収支決算報告書

【収入の部】

単位：円

項 目	予算額	収入額	予算に比し 増 減	備 考
会 費	400,000	428,500	28,500	個人会員会費及び賛助会員会費
補 助 金	50,000	30,000	△ 20,000	自治連合会から補助
寄 付 金	100,000	105,000	5,000	篤志家からの寄付
雑 収 入	10,000	3,038	△ 6,962	銀行預金利子
合 計	560,000	566,538	6,538	

【支出の部】

単位：円

項 目	予算額	流用増減	予算現額	収 支 額	残 高	備 考
事 業 費	100,000	111,850	211,850	211,850	0	文化祭所要経費 その他
助 成 費	60,000	△30,000	30,000	0	30,000	助成金配分方法検討のため繰越
会 議 費	55,000	△42,885	12,115	11,700	415	役員会など
広 報 費	80,000	0	80,000	6,000	74,000	5月に会誌発行のため繰越
事 務 費	70,000	72,885	142,885	142,885	0	初年度調達 印押代、封筒、用紙、その他文房具、コピー代など
通 信 費	50,000	△41,850	8,150	370	7,780	
渉 外 費	55,000	0	55,000	51,550	3,450	会場使用に対するお礼など
雑 費	50,000	△30,000	20,000	13,189	6,811	供花、香典など
予 備 費	40,000	△40,000	0	0	0	
合 計	560,000	0	560,000	437,544	122,456	
566,538 (収入額) - 437,544 (支出額) = 128,994 (収支残額) <翌年度へ繰越>						

59 年度 予 算

【収入の部】

単位：円

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	128,000	前年度より繰越金
会 費	560,000	個人正会員 430人×1,000 = 430,000 〃 賛助会員 10人×5,000 = 50,000 高校生会員 10人×500 = 5,000 賛助会員15×5,000=75,000
補 助 金	50,000	市並びに関係地域団体からの補助又は助成金
寄 付 金	100,000	篤志家からの寄付金
雑 収 入	10,000	預金利子 その他
合 計	848,000	

【支出の部】

単位：円

項 目	金 額	備 考
事 業 費	170,000	協会主催の講演会, 研究会, 展示会, 発表会に要する経費
助 成 費	80,000	協会に属する講座, 同好会などで特に助成を必要と認めたもの
会 議 費	60,000	総会, 役員会, その他関係機関との打合せ会経費など
広 報 費	260,000	会員に対するニュース紙, 会報など発行経費
事 務 費	88,000	文房具, コピー代など事務経費
通 信 費	30,000	郵送料, 電話料などの通信費
渉 外 費	60,000	渉外関係費
雑 費	50,000	以上各項目に予見していない経費の支出を必要とするとき
予 備 費	50,000	
合 計	848,000	

五十九年度 事業計画

- 一、講座、同好会、セミナー、大和路見学会の継続開催
- 二、文化協会ニュースの発行
- 三、会誌の刊行
- 四、文化祭の開催
- 五、新年祝賀のつどいの開催（自治連合会、スポーツ協会などの諸団体との共催）
- 六、その他必要な事項

【備考】

- ① “このような講座・同好会を開設しては”とか“大和路見学会でどこに行きたい”などのご希望がございましたら、事務局までお知らせ下さい。
- ② 文化祭は十月に行いたいと思います。開催、出品などご協力をお願いします。

③ 正月には“新年祝賀会”が行われる予定です。会員の方は、当日是非ご参集下さって、年のはじめをお慶び下さい。

編集後記

今年の冬は予想以上に長く、桜の花が……と思つたら、もう初夏。季節に追われて、やっと文化協会報「曾富」が誕生しました。

身近な「カラト古墳の話」「鹿笛考」短歌に俳句、各部の活動情況、総会報告など、予想以上の原稿が寄せられ、部厚い会報となりました。こちらも二、三号と、会員の協力で、“文化の燈火”の心となることと思ひます。

編集は大橋先生の指導よろしく、雪の日の会議も再三、梶野先生に加え、大浦、木庭、真鍋さんら女性三委員も原稿集めに大活躍、永田・前事務局長も駆けつけられ、和気あいあいのうちに脱稿となりました。

最後に会報の印刷に助力下さった若草技能訓練所の方々に感謝しつつ……。

(内田 和夫)

編集委員 (順不同)

大橋	一	二	神功	3-20-1-6	⑦1	4501
大浦	小夜子		朱雀	1-71-3-12	♪	4651
内田	和夫		右京	4-72-1-2	♪	1456
真鍋	さとみ		右京	2-37-504	♪	4534
梶野	哲		神功	2-6-2-4	♪	3295
木庭	和子		神功	3-21-24	♪	3494

平城ニュータウン

いきいきショッピング、チクタク花時計



★ 近商と40の専門店 ★

サントウン

高の原

●近鉄京都線高の原駅前 ●電話0742(71)7806

近鉄グループ



近商

皆さまと共に11年

お買物は地元の商店街で

平 城 第 二
ショッピングセンター会

繁栄の街と共に歩む

平城ニュータウン
名 店 会

